

平成 17 年度
情報収集事業報告書
第 3 号

クォーターリー・レビュー

非鉄メジャーの
2005 年第 2 四半期動向

平成 17 年 9 月

独立行政法人 石油天然ガス・金属鉱物資源機構

はじめに

世界的な金属資源価格の高騰を受け、鉱物資源の大輸入国である我が国では原料資源調達が急務となってきており、これら鉱物資源を安定的に確保するためには、その需給の状況・動向等を的確に把握することが不可欠である。

また、我が国の海外鉱山開発事業の円滑な推進を支援するために、マクロ的な需給動向のみならず、世界の鉱山・プロジェクト、探鉱開発の動向を常時注視し、企業活動の推移と傾向を分析調査することは、大変意義のあることと考える。

本報告書は、このような状況を踏まえ、国際金属研究会(銅、鉛・亜鉛、ニッケル)のマンズリーレポート等をベースにしたマクロな生産動向調査に加え、世界の非鉄メジャー企業のクォーターレポート、各国統計機関の発表等により経営・生産状況、探鉱開発等の動向をレビューし、「クォーター・レビュー」としてとりまとめたものである。

最後に、本報告書が関係各位の参考となれば幸いです。

平成 17 年 9 月

独立行政法人 石油天然ガス・金属鉱物資源機構
金属資源開発調査企画グループ

おことわり:本報告書の内容は、必ずしも独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構としての見解を示すものではありません。正確な情報をお届けするよう最大限の努力を行っておりますが、本報告書の内容に誤りのある可能性もあります。本報告書に基づきとられた行動の帰結につき、独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構及び執筆者は何らの責任を負いかねます。

クォーター・レビュー
- 非鉄メジャーの 2005 年第 2 四半期動向 -

目 次

はじめに

. ベースメタルの国際市況と需給動向	1
1. 銅	1
2. 鉛	4
3. 亜鉛	7
4. ニッケル	10
. 世界の主要生産者の動向	13
1. 銅企業の動向	13
2. 亜鉛企業の動向	14
3. ニッケル企業の動向	15
. 今後の鉱山・製錬生産能力予測	16
. 主要企業の 2005 年第 2 四半期動向レビュー	17
1. CODELCO	17
2. Phelps Dodge	18
3. BHP Billiton (WMC 含む)	19
4. Grupo Mexico	21
5. Rio Tinto	22
6. Freeport McMoRan	23
7. KGHM	25
8. Falconbridge (Noranda 含む)	26
9. Antofagasta	27
10. Anglo American	28
11. Placer Dome	29
12. Inco	30
13. Newmont	31
14. Teck Cominco	32

. その他企業の動向、主要国の生産統計	33
1. 豪州企業の 2005 年第 2 四半期動向レビュー	33
2. メキシコ・Penoles 社の 2005 年第 2 四半期動向レビュー	39
3. インドネシア・Aneka Tambang の 2005 年第 2 四半期動向レビュー	40
4. 中国企業の 2005 年上半期動向レビュー	43
5. カザフスタン企業の 2005 年上半期動向レビュー	45
. 主要国、主要鉱山の生産統計	46
1. 主要国の生産統計	46
チリ	
ペルー	
中国	
カザフ	
メキシコ	
2. 主要鉱山の生産統計	48
2-1. チリの主要銅鉱山生産.....	48
(Escondida, Codelco Norte, Collahuasi, El Teniente, Candelaria, Los Pelambres 他)	
2-2. その他の主要銅鉱山生産.....	52
Molenci	
Antamina	
Grasberg	

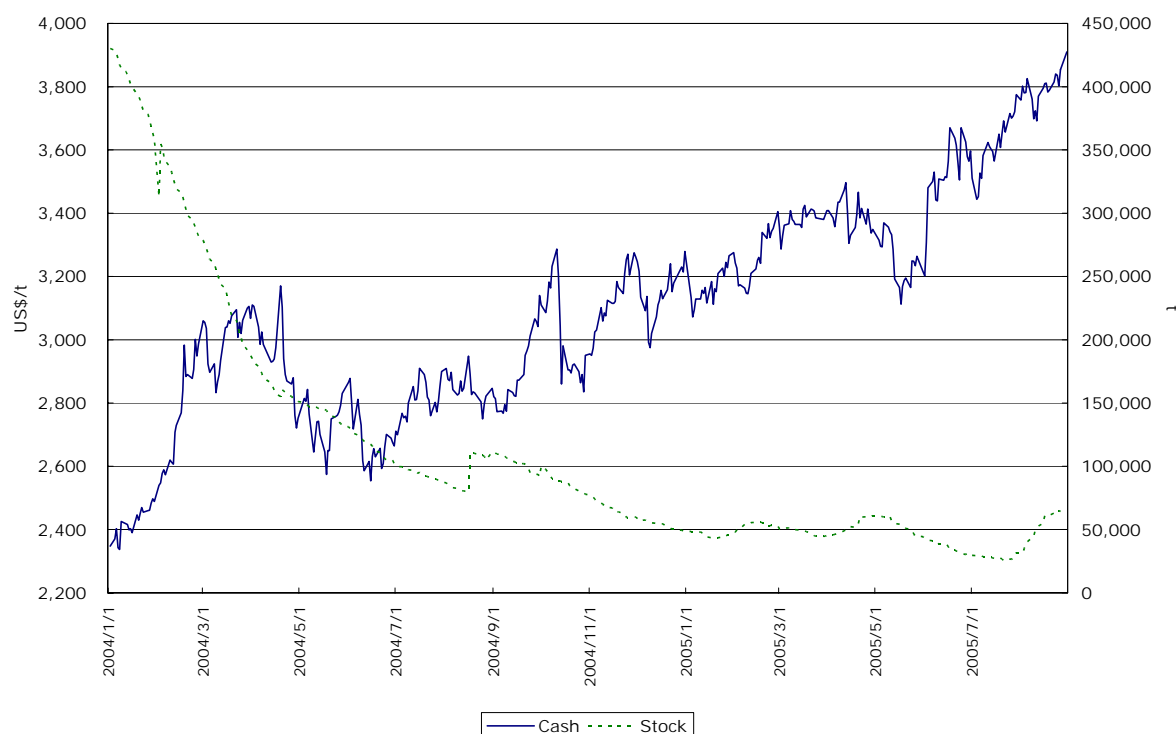
．ベースメタルの国際市況と需給動向

1. 銅

1. 銅の LME 価格は、6 月に入り LME 在庫の記録的低水準やペルー銅鉱山の操業停止等が材料となり 3,500 ドル超に上昇し、7 月に入り相次ぐストライキ等が材料となり、3,600 ドル台で推移した。8 月に入っても状況は変わらず、8 月 31 日には史上最高値である 3,915US ドルを記録。
2. 2005 年 4～6 月の鉱山生産は前年同期比で 1.6%増。地金生産は 6.0%増。一方、消費は中国以外は軒並み減で 0.8%増。
3. 2005 年第 2 四半期の世界の需給バランスは、前年同期の 790 千トン大きく下回る 219 千tの供給不足。

(1)国際価格(1月～8月)

銅の LME 価格は、史上最高値から少し下がった 3,757.50US ドル/t からスタートした 8 月の LME 銅価格は、乱高下を伴いながら上昇基調が継続した。8 月 2 日、5 日と一旦 3,800US ドル台の史上最高値を記録した後、一旦 3,600US ドル台に戻る動きも見られたが、上昇基調は止まらず、8 月 22 日以降は最高値を塗り替えてつづき 3,800US ドル台で推移、8 月 30 日には 3,900US ドル台に達し、8 月 31 日に史上最高値である 3,915US ドルを記録して終了した。8 月の平均価格は、3 か月連続で上昇し 5.1%増の 3,797.75US ドル/t。



銅地金価格と在庫量の推移

出典：LME

(2)需給(4~6月)

2005年4~6月の鉱山生産は前年同期比1.6%増の3,657.2千tであった。月別の鉱山生産を見ると、2005年4月は1,198.8千tと減少、5月は再び1,264.4千tと上昇した後、6月はまた1,194.0千tと減少している。鉱山の設備稼働率は、2004年後半の90%超から2005年に入り80%後半に下落、6月は86.7%であった。2005年4~6月の国別生産量は、最大生産国チリが前年同期比5.3%減、3位ペルーが7.8%減となる一方、2位米国が12.8%増、4位豪州が7.1%増、5位インドネシアがGrasberg鉱山の事故からの回復により20.0%増と大幅に増加し、2005年4~6月までの生産量ではペルーに匹敵する生産量となった。2005年4~6月の地金生産は前年同期比6.0%増の4,069.6千tであった。月別の地金生産は2005年4月1,332.1千t、5月1,379.6千t、6月1,357.9千tと増減を繰り返している。精錬所稼働率は、2004年12月以降伸び悩み80~81%で低迷、2005年6月は81.4%と前月より若干上昇している。2005年4~6月の国別生産量は、最大生産国のチリ(EW生産を含む、以下同様)が0.4%増、2位中国21.0%増、5位ロシア7.3%増となる一方、3位日本2.3%減、4位米国5.2%減となったが、全体では増加した。

国別の2005年4~6月の消費量は、最大消費国中国が前年同期比19.2%増、4位ドイツ11.3%増となる一方、その他主要国では2位米国8.0%減、3位日本1.9%減、5位韓国15.5%減となり、世界計では0.8%減の4,209.4千tであった。世界の消費を月別に見ると、2005年4月以降増加傾向で、4月の1,364.6千tから5月は1,421.4千tに大幅に増加した後、6月は1,423.4千tと微増で2005年の最大消費量となった。注目の中国の消費動向も、2005年4月以降増加傾向で4月の295.6千tから5月は326.6千tに急回復し、6月はさらに341.6千tと増加し、2005年最大となった。

2005年4~6月の需給バランスは、139千tの供給不足(季節調整後は20千tの供給不足)であった。2005年1月以降供給不足が継続しており、4月32千t、5月42千t、6月65千tの供給不足で、不足量が拡大傾向にある。季節調整後の需給バランスでも、2005年4月9千tの供給超過となった後、5月7千t、6月22千tの供給不足となっている。

銅の需給状況

(単位:千t)

銅	2004			2005		対前年 同期比(%)
	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	
鉱山生産量	3,601	3,704	3,927	3,555	3,657	1.6
地金生産量	3,838	4,015	4,099	3,977	4,070	6.0
一次	3,339	3,531	3,620	3,496	3,534	5.8
二次	499	484	479	481	535	7.2
消費量	4,176	4,020	4,064	4,057	4,209	0.8
需給バランス	-338	-5	35	-80	-139	-

出典:国際銅研究会資料(6月号)

(3) 今後の見通し

国際銅研究会が3月発表した銅需給見通しでは、2005年の世界の鉱山生産は8.0%増の15,678千トンと拡大を持続、地金生産は8.5%増の17,111千トンと大幅に拡大すると予想し、2006年については、鉱山生産が1%増の伸びに留まり、地金生産は5.6%増、消費は4.6%増となり、需給バランスは、供給不足量が、さらに93千トンまで縮小すると予想している。

LME在庫が倍増したものの低い在庫レベルには変わりなく、加えてタイやインドの製錬所の生産トラブルや事故、米国鉱山のストライキなど供給不安も継続していることから、投機資金流入が継続し価格上昇も継続、依然この価格上昇の継続には懐疑的な意見もある一方、強気の予想も出始めている。

BROOK HUNTは、2005年の需給バランスを17.8万tの供給不足と予測し、2005年の銅価格予測を3,478USドル/t(1.58USドル/lb)に上方修正している。さらに同社は、上記の供給不足は、2006年に入っても継続し、2006年の平均価格を2,750USドル/t(1.25USドル/lb)と予測。

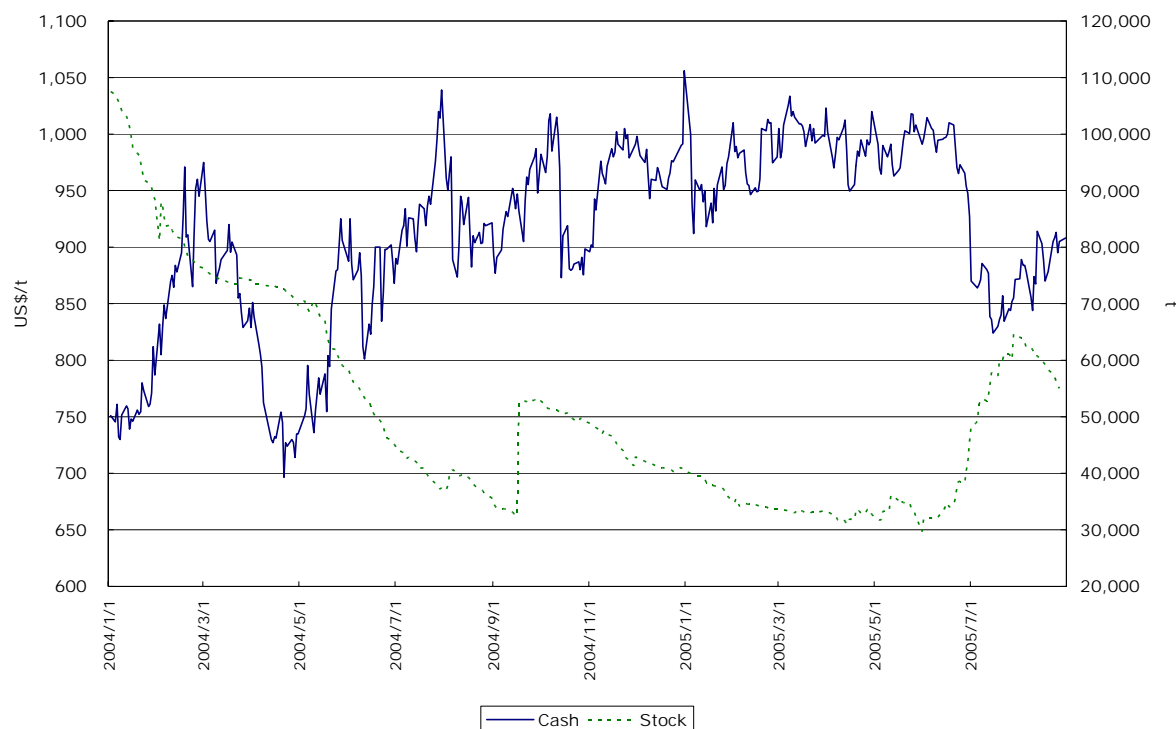
ゴールドマン・サックスでは、2006年の平均価格を2,785USドル/tと15%近く上方修正した。

2. 鉛

1. 鉛の国際価格は、6月に入りLME鉛在庫量が増加したことから下落し、7月に入って900ドルを割り込み、800ドル台に突入した。その後、カナダ・トレイル製錬所のスト入りを契機として若干回復し、8月後半は900ドル近辺で推移した。
2. 2005年4～6月の鉱石生産は、前年同期比1.4%の微増。地金生産は同7.3%増と中国・英国を中心として好調。消費は中国・米国として好調で同7.0%増。
3. 2005年第2四半期の世界の需給バランスは緩和し、ほぼバランスする状況。LME在庫量は6月・7月は合計35千t増加。8月は9千tの減少。

(1) 国際価格(1月～8月)

鉛の国際価格は、中国等の需要の急拡大や米国のドル安・低金利政策に加えLME在庫が極端に減少していることから、2003年秋以降価格上昇が続き、2004年末はt当り1,056ドルの年最高値を付け、1990年以来14年ぶりの高値を更新した。2005年に入り900ドル～1,033ドルの間で推移していたが、6月に入りLME鉛在庫量が増加したことから価格が下落し、7月に入って900ドルを割り込み、800ドル台に突入した。7月15日には824ドルとなり2004年6月以来約1年ぶりの低水準となった。その後、カナダ・トレイル製錬所のスト入りを契機としてLME鉛価格は若干回復し、8月後半は900ドル近辺で推移した。



鉛地金価格と在庫量の推移

出典:LME

(2) 需給(4～6月)

国際鉛・亜鉛研究会資料(8月号)によると、2005年4～6月の世界の鉛鉱石生産は803千tであり、前年同期比1.4%の微増となった。最大生産国の中国で4.2%増、ペルーでも4.1%増となったが、2位豪州は3.7%減、3位米国も2.9%減であった。

2005年4～6月の世界の鉛地金生産は1,856千tであり、前年同期比7.3%増となった。最大生産国の中国で15.4%増と顕著な伸び、4位英国も29.8%増となった。日本は5位で4.6%増、3位ドイツは8.3%の減産。

2005年4～6月の鉛消費量は、前年同期比7.0%増の1,865千tとなった。世界第2位の中国で20.6%増の409千tとなり、第1位の米国も10.3%増の406千tとなり、両者の消費量の差は僅か。ドイツでは鉛消費量が16.2%減となっており、韓国・イタリアも2%程度減少している。

世界の鉛需給バランスは、米国備蓄放出分も考慮すると2005年4月は7千tの供給不足となったが、5月はバランスし、6月は7千tの供給過剰となり、4～6月の3カ月間でみてもバランスする状況となっている。

LME 鉛在庫量は、シンガポール及び米国で増加し、2005年6月末で45.6千tとなり、前月比15.9千tの増加となった。月末ベースでは2004年9月以来9カ月ぶりの増加。

鉛の需給状況

(単位:千t)

鉛	2004			2005		対前年同期比(%) C/A	対前期比(%) C/B
	第2四半期 (A)	第3四半期	第4四半期	第1四半期 (B)	第2四半期 (C)		
鉱山生産量	792	781	783	744	803	1.4	8.0
地金生産量	1,730	1,660	1,791	1,783	1,856	7.3	4.1
米国備蓄放出	14	16	12	20	9	-	-
消費量	1,743	1,726	1,805	1,825	1,865	7.0	2.2
需給バランス	1	-50	-2	-22	(0)	-	-

出典:国際鉛亜鉛研究会資料(5月号)

(3) 今後の需給見通し

2005年の鉛需給については、これまで2004年並みの大幅な供給不足予測が一般的であったが、テックミンコはほぼバランスするとの予想を発表している。

CRUによれば、西側世界の鉛需給は2006年に供給過剰に転じると予測される。2004年の鉛需給は中国を中心とする需要増大により1998年以来の供給不足となったが、2005年の不足幅は100千tを下回る見込み。消費は2008年まで堅調に増加するが、鉱石供給もサンクリストバル(ボリビア)、マジェラン(豪州)鉱山の新規稼働、ブラックスター、マウントアイザ、キャニントン、ブロークンヒル、ナイカ鉱山の生産能力増強などで増加する。

Brook Huntも、世界の鉛需給バランスについて、2005～2007年は4～8万t程度の供給過剰にな

ると予測している。

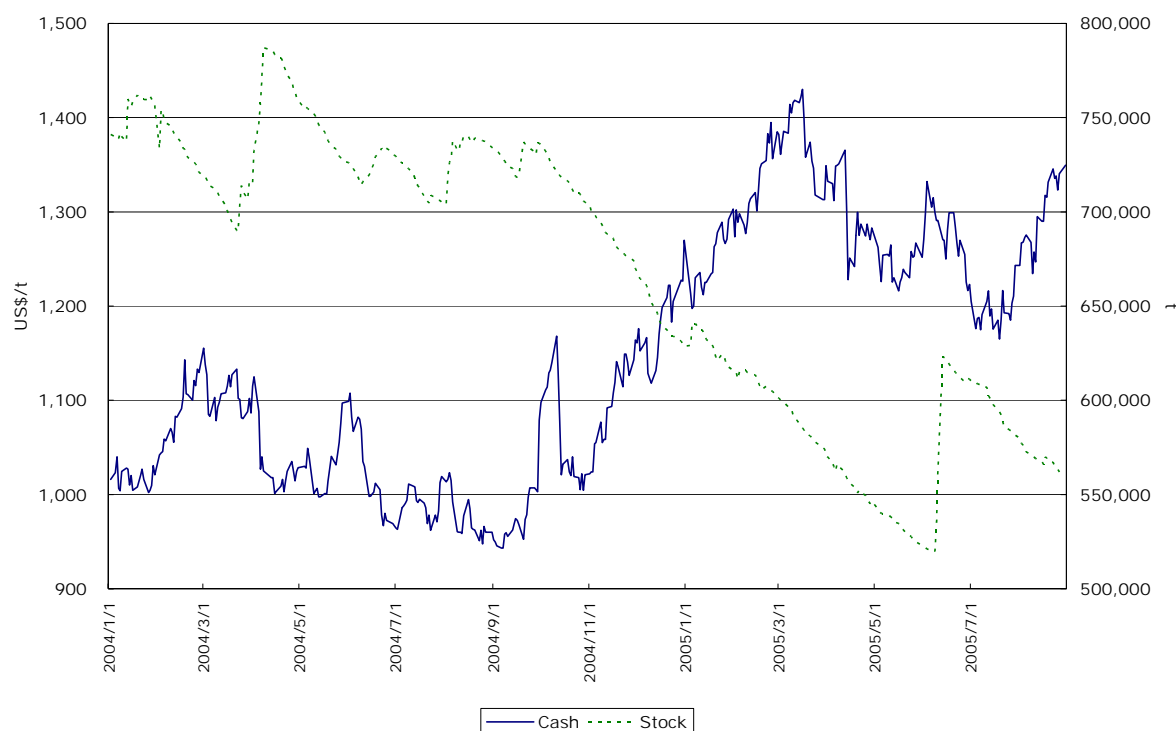
鉛価格は、ファンド筋の売りによる下降圧力が高まっている。投資ファンドはこれまで、ベースメタル市場でロングポジションを積み上げ、価格を高騰させてきたが、鉛の需給緩和に伴い、LME 在庫が増加し続けるようであれば、さらに1当り 600 ~ 700 ドルまで急落する可能性がある。2005 年の LME 鉛平均価格予測は、CRU が 894 ドル、Brook Hunt が 932 ドルとしている。

3. 亜鉛

1. 亜鉛の国際価格は、3月16日にはt当り1,430ドルまで上昇したが、その後投機ファンド資金の一部流出やLME在庫が6月に103千t増加したことも影響して、7月には一時1,200ドルを割り込んだ。その後、カナダ・トレイル製錬所のスト入り等を材料として8月30日には1,349ドルまで回復した。
2. 2005年4～6月の鉱石生産は前年同期比2.9%増。地金生産は同3.8%増。消費は同0.2%減。中国で11.6%増となったが、それ以外の国では欧米を中心に需要が減退。
3. 2005年第2四半期の世界の需給バランスは6千tの供給不足で、不足量は大幅に減少した。LME在庫量は、6月末で88千t増加したが、7月・8月は合計49千t減少した。

(1) 国際価格(1月～8月)

亜鉛の国際価格は、2005年に入り、1月に中国で電力不足による亜鉛製錬所減産、2月10日には2006年3月で豊羽鉱山操業休止が伝えられたこともあり、LME価格の上昇が続いた。3月には、亜鉛生産量で世界第2位である豪州のCentury鉱山が、SAG(半自生粉碎)ミルの電気系統の障害により11.5日間操業を中断した影響もあり、3月16日にはLME価格はt当り1,430ドルまで上昇し、1997年9月以来7年ぶりの高値を更新した。その後ドル高を背景として投機ファンド資金の一部流出があり、またLME在庫が6月13日に前週と比べて103千t増加し623千tとなったことも影響して、7月4日には1,176ドルとなり2004年12月以来7ヵ月ぶりに1,200ドルを割り込んだ。その後、19日にカナダ・トレイル製錬所がスト入りしたことから亜鉛価格は回復を見せ、8月30日には、1,349.5ドルとなった。



亜鉛地金価格と在庫量の推移

(2)需給(4~6月)

国際鉛・亜鉛研究会資料(8月号)によると、2005年4~6月の世界の亜鉛鉱石生産は2,472千tであり、対前年同期比2.9%増となった。最大生産国の中国で1.9%増となったほか、主要生産国の豪州で3.9%増、ペルーで4.2%増、米国でも5.5%増といずれも増産。カナダはBell Allardが2004年12月に閉山、Bouchard-Hebertが今年2月に閉山したことにより5.5%の減産となった。

2005年4~6月の世界の亜鉛地金生産は、2,652千tで、対前年同期比3.8%増となった。最大生産国の中国は、対前年同期比4.7%増となった。韓国、日本では、需要増加、地金価格上昇により5-6%台の増産となった。

2005年4~6月の亜鉛消費量は、2,668千tで前年同期比0.2%の微減となった。最大消費量の中国で11.6%の大幅増となったが、ドイツが14.2%減、米国が9.4%減と欧米での需要減退が目立った。中国以外のアジアでは、日本では前年同期と同じ、韓国では2.6%減となった。

2005年第2四半期の世界の亜鉛需給バランスは引き続き6千tの供給不足となったが、前年同期と比べて不足量は大幅に減少しており、ほぼバランスの取れた状態に向かっている。

亜鉛のLME在庫量は、6月にマレーシア、オランダ、イタリアで増加したことから6月末で611千tとなり、5月末と比べて88千t増加した。

亜鉛の需給状況

単位:千t

亜鉛	2004			2005		対前年同期比(%) C/A	対前期比(%) C/B
	第2四半期 (A)	第3四半期	第4四半期	第1四半期 (B)	第2四半期 (C)		
鉱山生産量	2,402	2,450	2,457	2,347	2,472	2.9	5.4
地金生産量	2,556	2,556	2,602	2,569	2,652	3.8	3.3
米国備蓄放出	10	9	6	3	10	-	-
消費量	2,673	2,645	2,612	2,613	2,668	-0.2	2.1
需給バランス	-107	-80	-3	-41	-6	-	-

出典:国際鉛亜鉛研究会資料(8月号)

(3)今後の需給見通し

Barclays Capitalは、2005年の世界亜鉛供給不足量は397千tとなるものの、2006年には供給不足量は189千tまで減少するとの需給予測を発表した。同社は、世界の亜鉛需給バランスが2007年には103千tの供給過剰、2008年には144千tの供給過剰と予測している。

世界的な調査機関であるCRUやBrook Huntでは、2005年の亜鉛地金の供給不足をそれぞれ、350千t、568千tと昨年よりも拡大すると見ており、供給不足は2006年まで続くと予測している。また、亜鉛生産大手ノランダ社は鉱石の供給不足が2007年まで持続するとの見方を示しており、2005年の世界の亜鉛供給不足量を2004年より少ない176千tとする研究会の予想に懐疑的な見方もある。

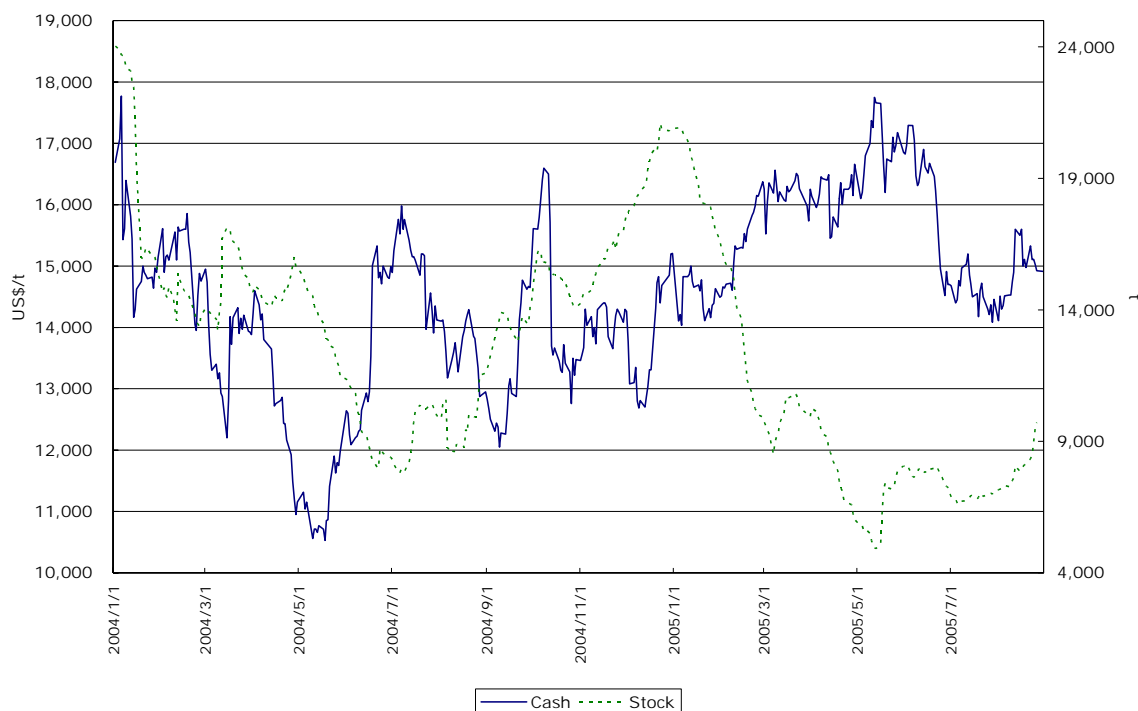
LME 亜鉛平均価格予測は、Barclays Capital は、2005 年はt当たり1,300ドルと予測している。2006 年の平均価格は 1,460 ドルまで上昇するが、2007 年には供給過剰となることから価格も軟化すると
の見通しを立てている。Brook Hunt は、2005 年の LME 亜鉛平均価格を 1,298ドル、2006 年を 1,465
ドル、2007 年は更に上昇して 1,520 ドルと予測している。

4. ニッケル

1. ニッケルの国際価格は、2月後半に16,000ドル台となり6月中旬まで堅調推移。しかし、世界的なステンレス鋼の供給過剰懸念から6月22日より下落、同24日には15,000ドル割れとなり、7月に入っても14,000ドル台で推移。7月28日には14,085ドルと今年1月以来の安値を付け、8月も14,000～15,000ドル台で推移し、8月末日現在14,950ドル。
2. 2005年4～6月の鉱石生産は、前年同期比0.9%の増、地金生産は4.0%の増、消費は1.2%の減。その結果、2005年第2四半期の世界の需給バランスは9.4千tの供給過剰。LME在庫は、2005年に入り大幅減少していたが、8月に入りやや回復し8月末時点で9,528t。

(1) 国際価格(1月～8月)

ニッケル国際価格は、1月の急落以後、需給タイト感や在庫減少などを材料に徐々に回復し、2月後半には昨年10月以来の16,000ドル台となった。3月に入っても16,000ドル台前後で堅調推移し、4月上旬も16,000ドルから16,500ドルの高値で推移したが、ドル高を背景とした投機筋の利食い売りにより、4月13日に15,455ドルへと急落。しかし、その後はドルの反落に伴い16,000ドル台へと回復、5月中旬には2004年1月以来の17,000ドル台を付け、その後も6月初めまで16,000ドル台後半から17,000ドル台で堅調推移した。6月中旬まで16,000ドル台中盤で推移したが、世界的なステンレス鋼の供給過剰懸念が嫌気されたことから6月22日に大幅下落し16,000ドルを割り、24日には14,955ドルと今年2月以来の15,000ドル割れへと続落した。その後、7月に入っても、欧州、韓国、国内のステンレス鋼ミルの相次ぐ減産なども影響し14,000ドル台が続ぎ、7月28日には14,085ドルと今年1月以来の安値となった。8月上旬も14,000ドル台で推移、同月中旬に15,000ドル台となったものの、下旬には再び14,000ドル台となり、8月末日現在14,950ドルとなっている。



ニッケル地金価格と在庫量の推移

出典:LME

(2) 需給(4~6月)

2005年4~6月のニッケル鉱石生産は329.7千tで、対前年比0.9%(2.9千t)の増となった。最大生産国のロシアは2.3%(1.5千t)の増、第2位の豪州は31.6%(11.7千t)の大幅増、第4位のインドネシアも11.4%(4.0千t)の増となり、第3位カナダの16.2%(8.0千t)の減、第5位ニューカレドニアの22.3%(6.7千t)の減を補った。2005年4~6月のニッケル地金生産は322.4千tで、対前年比4.0%(12.5千t)の増となった。最大生産国ロシアはほぼ変わらず、第2位の日本は6.5%(2.8千t)の減、第4位のカナダは13.4%(5.1千t)の減となったが、第3位豪州の8.5%(2.6千t)増、第5位中国の12.0%(2.5千t)の増などがこれを補った。2005年4~6月のニッケル地金消費は313.0千tで、前年比1.2%(3.7千t)の減となった。消費量第1位の日本、第3位の米国はほぼ変わらず、第2位の中国は28.9%(10.1千t)の大幅増、第4位の韓国は5.0%(1.3千t)の減であった。

2005年4~6月の需給バランスは、9.4千tの供給過剰となっている。

ニッケルの金属取引所在庫量は、2005年に入り減少傾向に転じ、2005年年初には20,000t程度だったが、2月末時点で9,924tと大幅に減少。引き続きさらに減少し、5月中旬には5,000tを割り込み1991年以来の低水準となった。その後やや回復し、5月末か6月後半までは8,000t前後で推移したが、6月末からは7,000t前後で推移。7月も7,000t前後が続いたが、8月に入り徐々に回復し、同月下旬には9,000t台となり、8月末日時点で9,528tとなっている。

ニッケルの需給状況

単位:千トン(Ni純分)

ニッケル	2004年	2004年	2004年	2005年	2005年	前年同期比 (%)
	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	
鉱山生産量	326.8	328.1	329.4	336.7	329.7	0.9
一次地金生産量	309.9	303.1	322.6	325.0	322.4	4.0
消費量	316.7	305.3	319.5	320.9	313.0	-1.2
需給バランス	-6.8	-2.2	3.1	4.1	9.4	

出典:国際ニッケル研究会

3. 今後の見通し

国際ニッケル研究会によると、2005年世界のニッケル鉱山生産は6.2%増、ニッケル地金生産は4.4%増、ニッケル地金消費は4.1%増と予測しており、2005年世界のニッケル地金需給は6,300tの供給過剰(日本での備蓄売却分600tを含む)としている。

業界紙、メディア等によると、2005年の今後のニッケル供給については、主要生産者はフル生産継続の見込みであり、全体としては増産基調と予測される。一方、需要サイドについては、ニッケル用途の2/3以上を占めるステンレス分野において、中国でのステンレス生産急増などによる世界的な供給過剰懸念と需要鈍化を理由に、国内外のステンレスメーカーが減産傾向となっているため需要は弱く、2005年のニッケル需給バランスは緩むとの見方が強い。一方、ニッケル新規プロジェクトの始動が2006年以降であること、在庫が依然として低水準であること、さらに航空機・エネルギー産業向けのスーパーアロ

イの需要が急速に回復していることなどから、2005年需給は供給不足との見方もある。

ニッケル価格については、ステンレスメーカーの減産基調がしばらくは続く見通しであり、需給バランスの緩みを背景に軟調で推移するとの見方が強い。一方、バークレイズ・キャピタルは、今後のニッケル相場は、ステンレス需要の回復により上昇トレンドに転じ、来年にかけて17,000ドルに上昇するとの見解を述べている。

．世界の主要生産者の動向

1. 銅企業の動向

2005年第2四半期の主要生産者13社の銅鉱山生産は、合計201.0万t、約4.4万tの減産(前年同期比2.2%減)となった。2005年第2四半期の生産実績を公表した主要生産者13社のうち、3社が増産、9社が減産、1社が増減なしとなっている。なお、2005年前期の生産実績としては、半期ベースで生産実績を公表している2社を加えた15社ベースで約4.0万tの増産(前年同期比0.9%増)となっている。

最大の増産はFreeport McMoran社(米)で、同社のGrasberg鉱山が2003年10月に発生した地すべり事故から回復したことによる増産である。Freeport McMoran社の2005年第2四半期の生産量は、前年同期と比べて42,200t増(44.5%増)となった。しかしながら、2004年第4四半期以降減産傾向にあり、前四半期からは9.9%の減産となっている。

一方、最大の減産は、世界最大の銅生産者であるCodelco社(チリ)で、34,000tの減産(前年同期比7.9%減)であった。これは主力のCodelco Norteがミル故障、低品位・低回収率で減産したこと等によるものである。なお、Codelco社の2005年前期の業績は、銅価格が大幅に上昇したことにより引き続き好調で、売上は47.5億US\$(前年同期比22%増)、税引前利益は22.4億US\$(前年同期比45%増)、純利益は801百万US\$(前年同期比53%増)を記録した。

この他主要な生産者として、BHP-Billiton社(英豪)は、2,800tの減産(前年同期比1.0%減)であった。これは、WMC社買収でOlympic Dam(豪)を獲得したことによる増産が、Cerro Colorado(チリ)の地震による減産、Tintaya(ペルー)の地域不安による減産で相殺されたためである。

Phelps Dodge社(米)は、2,600tの増産(前年同期比1.0%増)であった。Phelps Dodge社の2005年第2四半期の業績は前四半期よりさらに好調で、純利益が882.3百万US\$(前年同期比3.0倍)と前四半期の過去最高益記録をまた更新した。

Grupo Mexico社(メキシコ)は、2,166tの増産(前年同期比1.0%増)であった。これは、傘下のSouthern Peru Copper社の鉱山が低品位等で7.7%減産する一方、Asarco社では53%も増産し、全体としては微増となった。Grupo Mexico社の2005年第2四半期の業績は、銅価格が高かったことから、売上が1,304百万US\$(前年同期比31%増)、操業利益が512百万US\$(36%増)、税引前利益(EBITDA)が607百万US\$(36%増)と好調を維持している。

Rio Tinto社は、3,300tの減産(前年同期比1.7%減)であった。Grasberg鉱山は前年同期比137%増と回復しているが、チリのEscondidaが品位ばらつき等の影響で前年同期比5.0%減、Kennecott Utah CopperのBingham Canyon鉱山もモリブデン生産最大化の影響を受けた銅精鉱減産により前年同期比11.4%減となり、Rio Tinto社全体としては1.7%の減産となった。

2005年第2四半期までの最近の主要銅鉱山生産者の生産実績(精鉱中銅金属量及びSX/EWカソード生産量)は次表のとおりである。

主要銅鉱山生産者の生産実績

(単位:t)

会社名(本社所在国)	2004年		2004年		2005年		前年同期比(%)
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	
Codelco(チリ)	420,000	433,000	476,000	541,000	414,000	399,000	-7.9
BHP-Billiton(英豪)	240,600	272,600	248,800	265,800	249,600	269,800	-1.0
Phelps Dodge(米)	260,300	261,100	282,900	290,200	271,900	263,700	1.0
Grupo Mexico(メキシコ)	220,871	213,373	217,312	221,894	202,535	215,539	1.0
Rio Tinto(英)	180,000	193,400	174,700	204,900	188,200	190,100	-1.7
Anglo American(英)	363,900		402,100		315,600		-13.3
Freeport McMoran(米)	48,600	94,900	116,300	192,200	152,200	137,100	44.5
KGHM Polska(ポーランド)	132,000	136,443	142,163	139,460	130,776	133,538	-2.1
Falconbridge(加)	99,663	122,148	135,536	133,165	118,636	115,349	-5.6
Norilsk Nickel(ロシア)	110,000	112,000	112,000	113,000	113,000	112,000	0.0
Xstrata(スウェーデン)	175,105		197,309		185,562		6.0
Antofagasta(英)	67,404	77,595	80,430	81,515	73,209	66,880	-13.8
Placer Dome(加)	49,441	49,441	45,813	42,184	41,277	40,823	-17.4
Newmont(米)	37,605	57,470	55,308	47,290	30,484	39,071	-32.0
Inco(加)	29,740	30,380	35,070	29,694	32,648	26,632	-12.3
13社計	1,896,224	2,053,850	2,122,332	2,302,302	2,018,465	2,009,532	-2.2
15社計	4,489,079		5,024,043		4,529,159		0.9

注: 各社発表による。生産量は各社とも自社シェア分。Anglo American社とXstrata社は半期毎の発表のため、13社計にはこれら2社が含まれてない。

2. 亜鉛企業の動向

2005年第2四半期が公表されている主要亜鉛鉱山生産者の生産実績(10社分)及び中国の生産量の合計は1,359千tとなり、前年同期比2.4%増となった。

最大生産者のTeck Cominco社の亜鉛鉱山生産量は、前年同期比5.6%増の161,595tとなった。主力のRed Dog鉱山(米アラスカ州)は、同3.2%減となったが、Pend Oreille鉱山が2004年第3四半期から本格生産開始となり、今期生産量は13千tであった。Antamina鉱山(ペルー)は、昨年並みの生産量であった。

第2位のZinifex社の亜鉛鉱山生産量は、前年同期とほぼ同じ151,442tとなった。主力のCentury鉱山は3月にSAGミルモータの故障が発生し11.5日間生産停止となったが、生産量が回復し前年同期比2.8%増となった。Rosebery鉱山では、同14.4%減であった。

第3位のFalconbridge社(旧Noranda社)の亜鉛鉱山生産量は、前年同期比2.9%増となった。主力のBrunswick鉱山は、同15.6%増となった。Kidd Creek鉱山からの亜鉛生産量は前年同期の3.4倍の36,763tに達した。

Vedanta 社では、Rampura Agucha 鉱山(インド)の拡張により、亜鉛鉱山生産量が前年同期比 38.4%増となった。

また、Rio Tinto 社(英)は、2004 年 3 月、Zinkgruvan 鉱山(スウェーデン)を South Atlantic Ventures 社(加)に売却し、権益保有鉱山が Greens Creek 鉱山(米アラスカ州、70%)のみとなったため、亜鉛鉱山生産量は前年同期比 51.6%減となった。

主要亜鉛鉱山生産者の生産実績(単位:t)

会社名(本社所在国)	2004年 第2四半期 (A)	2004年 第3四半期	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期 (B)	2005年 第2四半期 (C)	増加率(%) C/A	増加率(%) C/B	出典
Teck Cominco(加)	152,995	170,925	148,667	160,855	161,595	5.6	0.5	1
Zinifex(豪)	151,381	153,999	149,748	134,422	151,442	0.0	12.7	1
Falconbridge(加)(Noranda)	125,907	141,128	116,156	117,253	129,617	2.9	10.5	1
Vedanta(英)	82,367	84,815	89,000	98,447	114,000	38.4	15.8	1
Boliden(スウェーデン)	88,964	79,657	98,422	87,021	80,164	-9.9	-7.9	1
Industrias Penoles(メキシコ)	52,700	52,300	52,200	52,500	52,800	0.2	0.6	2
Grupo Mexico(メキシコ)	33,500	32,400	34,500	34,700	37,100	10.7	6.9	2
BHP Billiton(英・豪)	29,038	23,851	20,918	32,388	28,204	-2.9	-12.9	1
CBH Resources(豪)	21,092	17,655	18,129	18,009	15,022	-28.8	-16.6	1
Rio Tinto(英)	21,500	10,700	11,700	10,000	10,400	-51.6	4.0	1
中国	568,000	604,100	627,000	488,300	578,800	1.9	18.5	3
10社+中国の計	1,327,444	1,371,530	1,366,440	1,233,895	1,359,144	2.4	10.2	

出典: 1) 各社ホームページ、2) JOGMECメキシコ事務所調べ、3) 国際鉛亜鉛研究会

3. ニッケル企業の動向

2005 年第 2 四半期の生産実績を公表した主要 4 社のニッケル鉱山生産量は 164 千 t で、このうち 2 社が増産、2 社が減産となった。

世界最大のニッケル生産者である Norilsk の生産量は 61,000t であった。2 位の Inco は、インドネシアにおける発電ダム水位低下による電力不足のため生産量が減少した。WMC Resources は BHP-Billiton 社により買収されたため、同社は世界第 3 位のニッケル生産者となり、59.8% の大幅増加となった。世界第 4 位の Falconbridge は、主力の Sudbury 鉱山での増産により、全体で 8.4% の増となった。

主要ニッケル鉱山生産者の生産実績(単位:t)

会社名(本社所在地 国)	2004 年 第 2 四半期	2004 年 第 3 四半期	2004 年 第 4 四半期	2005 年 第 1 四半期	2005 年 第 2 四半期	前年同期比 (%)
Falconbridge(加)	18,828	21,201	21,055	20,524	20,700	8.4
BHP Billiton(英・豪) (WMC Resources(豪))	19,900 (25,274)	- (30,337)	- (31,391)	20,800 (29,216)	31,800	59.8
Inco Ltd.(加)	59,400	53,800	67,200	53,700	50,353	-15.5
Norilsk Nickel(ロシア)	-	-	-	59,000	61,000	
4 社合計	-	-	-	154,024	163,853	

各社発表による。生産量は各社とも自社シェア分。

・今後の鉱山・製錬生産能力予測

国際銅研究会は、四半期ごとに改定している世界の銅鉱山・製錬一覧の2005年7月版を発表した。これは、2005年4月から7月までに発表された変化を反映するとともに、さらに2009年における計画を初めて記載したものである。

2009年までに計画されている世界の銅鉱山・製錬能力 (単位:銅金属量千t)

	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	05年/09年の増加量	05年/09年の年増加率
SX-EW	3,111(3,146)	3,330(3,571)	3,662(3,894)	4,231(4,161)	4,365	1,254	8.9%
精鉱	13,644(13,667)	13,784(13,785)	14,256(14,424)	14,731(14,828)	14,792	1,148	2.0%
鉱山計	16,755(16,813)	17,113(17,355)	17,918(18,318)	18,962(18,989)	19,157	2,402	3.4%
溶錬	16,137(16,238)	17,077(16,904)	17,237(17,119)	17,345(17,137)	17,500	1,363	2.1%
電解精錬	16,450(16,540)	17,249(17,141)	17,468(17,246)	17,508(17,286)	17,598	1,148	1.7%
精錬計	20,307(20,540)	21,324(21,493)	21,885(21,931)	22,494(22,238)	22,718	2,411	2.9%

()は2005年4月発表の数字

2005年4月時と比べて、銅鉱山能力は全般的には下方修正となっており、前回までの上方修正の傾向が変化している。また、今回新たに発表された2009年における鉱山生産能力は約19百万tとなることが計画されており、2005年と比べて約240万t(精鉱:115万t、SX-EW:125万t)増加する見込みで、2005年から2009年までの4年間で鉱山生産能力は、年率3.4%(精鉱:2.0%、SX-EW:8.9%)増加する見込み。

溶錬生産能力では、2005年4月時と比べて2005年は下方修正したものの、2006年以降は上方修正された。今回新たに発表された2009年の溶錬生産能力は1,750万tに達する計画で、2005年から2009年までの4年間で溶錬生産能力は、合計で約136万t増加する見込みである。これは年率では2.1%増加することとなり、精鉱の供給能力増加よりはやや大きくなっている。この結果、溶錬の稼働率は今後低下する可能性が出てきている。

精錬生産能力では、2005年4月時と比べて2005～2007年は下方修正したものの、2008年については上方修正された。今回新たに発表された2009年の精錬生産能力は2,270万tに達する計画で、2005年から2009年までの4年間で精錬生産能力は、約240万t増加することが見込まれる。電気精錬で115万t、EWで125万t、それぞれ電気精錬:年2.9%増、EW:年8.9%増となる見込み。

これらの計画された能力拡張には、現存する鉱山・プラントの管理、メンテナンス、一時的生産削減等で変動する部分(Swing Capacity)は含まれていない。国際銅研究会の調査では、この変動部分は鉱山で僅か0.8万t、溶錬で40.2万t、精錬で54.2万tの能力が引き続き使用されていない状況にある。

前回の2005年4月版の一覧と比較して、2008年の生産能力が鉱山は若干減少、溶錬、精錬は増加している。新たに発表された2009年の生産能力は2008年と比べてSX-EW以外それほど大きく伸びる計画とはなっていない。市況が最高潮に達し転換点にあるといわれる中、これまでと異なり、特に鉱山生産者の間では、投資にやや慎重な姿勢が現れ始めていると考えられる。

・主要企業の 2005 年第 1 四半期動向レビュー

1. CODELCO

2005 年第 1 四半期は、CODELCO Norte ディビジョンの減産あるも銅およびモリブデン価格高水準化で過去最高の売上および利益を記録

(1) トピックス

- ・ 上半期の銅生産量は、CODELCO Norte の SAG ミルの故障および鉱石品位の低下等により前年同期比 1.22%減の 813,000t となった。
- ・ 上半期税引前利益は、前年同期比 45.5%増の 22.4 億ドルを記録した。これは全額国庫に納められる。
- ・ 上半期のモリブデン生産量は前年同期比 13%増の 17,000t を記録、売上高は 12 億ドルで 2004 年年間売上高 10 億ドルを既に上回った。

(2) 財務状況

(単位:百万ドル)

	2004 年 第 2 四半期	2004 年 第 3 四半期	2004 年 第 4 四半期	2005 年 第 1 四半期	2005 年 第 2 四半期
売上高	2,047	2,087	2,211	2,255	2,497
営業利益	841	900	1,007	1,149	1,303
当期損益	313	293	319	389	412

(3) 生産状況

1) 主要鉱産物生産状況

公表データなし

2) 主要保有鉱山生産状況

(単位:千t)

ディビジョン名	2004 年 第 2 四半期	2004 年 第 3 四半期	2004 年 第 4 四半期	2005 年 第 1 四半期	2005 年 第 2 四半期
CODELCO Norte (100%)	238	246	305	186	208
Salvador (100%)	19	21	21	15	19
Andina (100%)	59	62	62	62	62
El Teniente (100%)	89	121	127	97	114
El Abra (49%)	28	26	26	26	25
キャッシュコスト (¢/lb)	36.6	32.6	31.7	-8.1	-1.7

注1) 生産量は銅金属純分

注2) 第 2 四半期以降のキャッシュコストは累積平均値

注3) 山元キャッシュコスト(C1 コスト)がマイナスになっているのは、モリブデンクレジット効果により銅生産コストが大幅に低減されたことによるもので、見掛け上の計算値をそのまま表記しているもの。

(4) その他

特になし

2. Phelps Dodge

2005年第2四半期利益は682.3百万ドルと、前年同期比の3倍の大幅増。

(1) トピック

- ・ Tyrone 及び Cobre 鉱山、Chino 製錬所、及び Miami 精錬所における 419.1 百万 US ドルの特別税引き前資産は、Morenci 鉱山における史上初の商業ベースの銅精鉱リーチング施設の建設計画に向けられる。
- ・ Cerro Verde では新株式発行により、159.5 百万 US ドルの特別税引き前利益を達成した。

(2) 財務状況

(単位:百万ドル)

	2004年 第2四半期	2004年 第3四半期	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期
売上高	1,650.9	1,846.5	1,994.9	2,066.5	2,151.6
営業利益	354.7	405.2	428.9	549.0	173.7
当期損益	226.6	292.9	341.1	386.7	682.3
探鉱費	15.5	15.8	18.2	18.8	26.7

(3) 生産状況

1) 主要鉱産物の生産状況

鉱産物	2004年 第2四半期	2004年 第3四半期	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期
銅鉱石(千t)	82.5	98.7	110.8	106.3	93.5
銅地金(千t)(SX-EW)	182.1	183.6	178.8	164.7	169.3
モリブデン鉱石(千ポンド)	14.8	15.1	14.1	14.7	16.7

権益比率分のみ

2) 主要保有鉱山、製錬所の生産規模

(単位:千t(short tons))

鉱山名、製錬所名	2004年 第2四半期	2004年 第3四半期	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期
Morenci(EW)	89.3	91.5	89.6	78.3	87.5
Bagdad(Conc)	38.2	41.5	21.7	25.5	23.3
Bagdad(EW)	7.2	8.8	6.5	2.4	3.8
Sierrita(Conc)	18.6	-	18.4	19.5	18.0
Sierrita(EW)	-	-	2.6	2.0	1.9
Miami/Bisbee(EW)	2.4	2.4	2.7	2.6	3.4
Chino/Cobre(Conc)	1.6	13.2	15.0	14.3	10.6
Chino/Cobre(EW)	16.9	15.8	14.0	14.4	14.1
Tohono(EW)	-	-	-	0.6	0.7
Tyrone(EW)	10.5	11.1	10.3	10.4	10.9
Candelaria (Conc)	42.7	44.0	55.7	47.0	41.6
Cerro Verde(EW)	24.5	20.2	23.4	23.9	19.0
El Abra(EW)	31.3	29.5	29.7	30.1	28.0

権益比率分のみ

3. BHP Billiton (WMC を含む)

- ・銅は、Olympic Dam 鉱山 (豪州) を取得したことによる増加分を Cerro Colorado (チリ) の一時操業停止分が相殺して昨年同期並み。
- ・ニッケルは、WMC 社のニッケル部門 Nickel West 分が純増、第 1 四半期の 53% 増加。
- ・ウランは、Olympic Dam 鉱山 (豪州) が純増。

(1) トピック

- ・BHP Billiton は、6 月 3 日に 92 億豪ドル、7.85 豪ドル/株による WMC 買収に事実上成功、8 月 2 日には WMC 社の株式 100% 取得。第 2 四半期生産報告には、WMC の Olympic Dam 鉱山、ニッケル部門の Nickel West、クィーンズランドの肥料部門が含まれている。
- ・BHP Billiton の第 2 半期は、WMC の Olympic Dam 鉱山 (南オーストラリア州)、ニッケル部門の Nickel West (西オーストラリア州) 及び肥料部門 (クィーンズランド州) を含んだ最初の報告となった。
- ・BHP Billiton は、鉄鉱石、非鉄金属 石炭、アルミニウム、ニッケル、銀、鉛、マンガン鉱石・合金で記録的な生産となった。国際価格の上昇を受けて燃料炭、銅も記録的な生産となった。
- ・労働市場及び資材コストの上昇から、幾つかのプロジェクトで見積りコストを越え予算の修正がなされたが、プロジェクトは順調に進捗。
- ・2005 年第 2 四半期、Dendrobium (オーストラリア) 及び Panda Underground (カナダ) の 2 プロジェクトが承認を得た。2005 年中に 8 プロジェクトが承認を得る予定。

(2) 財務状況¹⁾

単位: 百万 US\$	2004 年 第 1 四半期	2004 年 上半期	2004 年 第 3 四半期	2004 年 下半期	2005 年 第 1 四半期	2005 年 上半期
売上高	-	24,943	-	15,521	-	31,804
営業利益	-	5,488	-	4,258	-	9,330
当期損益	-	3,379	-	2,813	-	6,398
探鉱費 (金属のみ)	35	49	26	36	31	56

(3) 生産状況

1) 主要鉱産物の生産状況

鉱産物	2004 年 第 1 四半期	2004 年 第 2 四半期	2004 年 第 3 四半期	2004 年 第 4 四半期	2005 年 第 1 四半期	2005 年 第 2 四半期
銅鉱石 (千 t)	179.1	208.6	187.0	201.8	186.0	199.2
銅地金 (千 t)	61.5	64.0	61.8	64.0	63.6	70.6
鉛鉱石 (t)	70,838	64,472	64,910	71,509	80,899	64,652
亜鉛鉱石 (t)	35,194	29,038	23,851	20,918	32,388	28,204
ニッケル地金 (千 t)	21.2	19.9	19.6	19.7	20.8	31.8
モリブデン鉱石 (t)	81	240	323	560	431	492
金 (ounce)	33,364	31,145	30,132	31,247	32,152	31,882
銀 (千 ounce)	12,064	11,053	11,769	12,353	14,044	11,881
マンガン鉱石 (千 t)	1,264	1,337	1,379	1,361	1,297	1,418
マンガン合金 (千 t)	179	203	195	207	197	156
フェロクロム (千 t)	266	264	265	271	240	178
アルミナ (千 t)	1,062	1,059	1,000	1,036	1,092	1,054

アルミニウム(千 t)	333	333	339	338	332	321
鉄鉱石(千 t)	21,085	20,537	22,545	24,916	23,988	25,296
原料炭(千 t)	8,532	9,284	9,277	9,629	8,938	9,570
燃料炭(千 t)	21,279	21,494	23,245	21,389	20,079	22,703
石油等(百万 boe)	29.78	30.32	28.03	29.38	28.49	33.13
ウラン(U ₃ O ₈ t)						415

2) 主要保有鉱山、製錬所の生産規模

鉱山名、製錬所名	2004年		2004年		2005年	
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期
Escondida 鉱山(銅千 t)	130.8	159.1	142.5	146.3	135.4	154
Tintaya 鉱山(銅千 t)	22.9	19.6	14.6	22.1	20.7	15.3
Antamina 鉱山(銅千 t)	24.6	29.9	29.9	33.4	29.9	29.9
Selbaie 鉱山(銅千 t)	0.8	-	-	-	-	-
Escondida(銅カソード千 t)	21.7	21.8	21.9	22.2	21.8	21.4
Cerro Colorado(銅カソード)	28.1	31.3	28.3	30.4	29.8	24.6
Tintaya(銅カソード千 t)	9.3	8.7	9.3	9.1	9.6	6.4
Pinto Valley(銅カソード千 t)	2.4	2.2	2.3	2.3	2.4	2.1
Olympic Dam 鉱山(銅カソード千 t)						16.1
Cannington 鉱山(鉛 t)	70,838	64,472	64,910	71,509	80,899	64,652
Cannington 鉱山(亜鉛 t)	13,589	13,493	10,968	13,956	15,241	12,676
Antamina 鉱山(亜鉛 t)	19,099	15,545	12,883	6,962	17,147	15,528
Selbaie 鉱山(亜鉛 t)	2,506	-	-	-	-	-
Escondida 鉱山(金oz)	27,942	26,044	25,370	24,475	25,987	20,774
Tintaya 鉱山(金oz)	4,009	5,101	4,762	6,772	6,165	4,066
Selbaie 鉱山(金oz)	1,413	-	-	-	-	-
Olympic Dam 鉱山(金oz)						7,042
Cannington 鉱山(銀千oz)	10,485	9,471	10,339	11,025	12,383	10,283
Escondida 鉱山(銀千oz)	614	720	604	639	650	658
Antamina 鉱山(銀千oz)	588	662	692	503	830	749
Tintaya 鉱山(銀千oz)	239	200	134	186	181	129
Selbaie 鉱山(銀千oz)	138	-	-	-	-	-
CMSA(ニッケル 千 t)	12.5	12.0	11.9	12.4	13.3	13.7
Yabulu 鉱山(ニッケル 千 t)	8.7	7.9	7.7	7.3	7.5	8.9
Nickel West(ニッケル 千 t)						9.2
Antamina 鉱山(Mo)	81	240	323	560	431	492
Highland Valley 鉱山(Mo)	-	-	-	-	-	-
Olympic Dam 鉱山(U ₃ O ₈ t)						415

(4) その他
特になし

4. Grupo Mexico

2005年第2四半期利益は、生産量が微変動の中、金属市況の高水準化(特にモリブデン)により、30%強増と大幅増が継続。また、4月1日よりSPCC社とMM社合併で事業開始。

1. トピック

- ・2005年第2四半期の純益は、261百万ドル前年同期比32.2%増と大幅増。
- ・4月1日、SPCC社はMM社(99.15%株)を傘下にし、GM社はSPCC社権益20.9%を増加させ(75.1%)、新体制で事業開始。
- ・GM社の6月末純負債は、1,359百万ドルで前年比35%減と大幅に減少。特に、MM社の2008年償還期限の債券を316百万ドルから222百万ドルに縮小。
- ・5月17日、GM社は第1四半期分の第1回目分割利益配当(0.25ペソ/株)を株主へ実施。
- ・GM社の主要鉱物の銅の第2四半期生産量は、ACM社管轄の下、前年同期比1%増、前期比6%増と微増。SPCC社の品位低下の減産を、MM社とASARCO社の増産でカバー。
- ・SPCC社は、SX-EW銅回収増と年25百万ドル経費節減を目的に、トケパラ鉱山の鉱石粉碎・リーチング材運搬設備へ61百万ドルを追加投資。
- ・ASARCO社の第2四半期の銅価格換算コストは、雇用者賃金コスト高を主な要因に、前年同期95.4セント/lbから113.5セント/lbへと高騰。

2. 財務状況

(単位:百万USドル)

	2004年 第2四半期	2004年 第3四半期	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期
売上高	995.3	1,022.4	1,315.0	1,246.1	1,303.5
営業利益	445.8	444.7	658.1	614.2	606.5
当期損益	197.5	136.6	284.0	250.6	261.0
負債総額	2,752.9	2,477.0	2,516.9	2,283.0	2,001.1
現預金	671.8	624.8	973.6	949.4	614.8
純負債	2,081.1	1,852.2	1,543.4	1,333.6	1,359.3
全投資(含探鉱)	87.4	113.2	172.6	135.6	125.6

3. 生産状況(主要鉱産物)

(単位:t, kg)

	2004年 第2四半期	2004年 第3四半期	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期
銅(千t)	213.4	217.3	221.9	202.5	215.5
銀(千kg)	156.6	150.9	150.5	148.0	153.2
金(kg)	276	247	244	246	258
モリブデン(千t)	3.21	3.51	4.45	4.02	3.59
亜鉛(千t)	33.5	32.4	34.5	34.7	37.1

4. その他

- ・GM社の製錬所は、MM社3、ASARCO社4、SPCC社2の計9ヶ所。
- ・鉄道部門子会社GFM社の純益は、前期19百万ドル、当期32百万ドルと安定収益確保。

(参考)GM社の組織(()内はGM社権益比率)

鉱業部門 AMC社(100%) - SPCC社(75.1%) - MM社(0.85%)
ASARCO社(100%)

鉄道部門 ITM社(100%) - GFM社(100%) - FERROMEX社(74%)

5 . Rio Tinto

2005 年上期利益は 2,165 百万ドルと、前年同期比の 1.34 倍と大幅増。

(1) トピック

- ・ 銅鉱石生産量は、前年同期比 1.7%減の 190.1 千t。Grasberg 鉱山では前年同期比で銅 1.4 倍、金 6.3 倍の増産。
- ・ チリ Escondida 鉱山では低品位化が続くも、生産性を上げることによりミルのスループットを改善している。
- ・ 米国 Kennecott Utah 鉱山の製錬所の定修は予定どおりの期間で実施され、それに伴い銅及び金は生産減となったが、好調なモリブデン市況から利益の減はさほどではなかった。
- ・ 銅の探鉱ボーリング調査を、チリ、トルコ、メキシコ及び米国で引き続き実施している。

(2) 財務状況

(単位:百万 US ドル)

	2004 年 上半期	2004 年 第 3 四半期	2004 年 下半期	2005 年 第 1 四半期	2005 年 上半期
売上高	6,805		7,330		9,439
営業利益	2,163		1,687		3,221
当期損益	1,611		1,202		2,165
探鉱費	38	54	61	30	63

(3) 生産状況

1) 主要鉱産物の生産状況

鉱産物	2004 年 第 2 四半期	2004 年 第 3 四半期	2004 年 第 4 四半期	2005 年 第 1 四半期	2005 年 第 2 四半期
銅鉱石(千 t)	193.4	174.7	204.9	188.2	190.1
銅地金(千 t)	81.6	82.5	81.1	77.8	62.0
モリブデン鉱石(千 t)	0.9	1.5	2.8	3.9	3.3

権益比率分のみ

2) 主要保有鉱山、製錬所の生産規模

(単位:千t(short tons))

鉱山名、製錬所名	2004 年 第 2 四半期	2004 年 第 3 四半期	2004 年 第 4 四半期	2005 年 第 1 四半期	2005 年 第 2 四半期
Bingham Canyon	64.0	63.3	73.9	62.1	56.7
Escondida(Conc)	99.1	87.5	91.8	84.9	94.1
Grasberg (JV)	9.3	9.2	24.0	25.7	22.0
Northparks	4.7	6.0	7.4	8.6	9.5
Palabora(Conc)	4.9	8.7	7.9	6.9	7.7
Kennecott Utah Copper (Ref)	61.7	63.1	61.6	57.2	41.5
Escondida(Ref)	11.4	11.4	11.6	11.4	11.2
Palabora(Ref)	8.5	8.0	8.0	9.2	9.3

権益比率分のみ

6. Freeport-McMoRan

2005年第2四半期は、銅・金相場がともに上昇したことや販売増加を反映して黒字決算に転換した。

(1) トピック

- 第2四半期決算は銅・金相場ともに上昇したことや販売増加を反映して1億7520万USドルの黒字決算。前年同期はインドネシア・Grasberg 銅・金鉱山での露天掘り斜面崩壊事故による操業停止で5330万USドルの赤字決算。
- 売上は、前年同期比で85.6%増(4億8630万USドル 9億290万USドル)、売上累計は2倍増(8億4650万USドル 17億590万USドル)、純利益は赤字(7280万USドル) 黒字転換(3億560万USドル)。平均銅相場は25%上昇(1.22USドル 1.53USドル/lb)、金相場は9.8%上昇(389.97USドル/oz 428.23USドル/oz)。収益急増の最大の要因はこの相場の好転。銅販売は52.9%増(2億510万lb 3億1370万lb)、金販売は75.6%増(35万1000oz 61万6400oz)。
- インドネシア鉱山事業(PT-FI)は鉱石品位の好転で選鉱生産が急増したことや販売増加で収益が大幅改善。前年同期比で、銅品位は上昇(0.82% 0.98%)、銅回収比率はわずかに低下(88.2% 87.4%)、金品位は上昇(0.95g/t 1.43g/t)、金回収比率はわずかに低下(84.6% 83.8%)。鉱石日産処理量は28.9%の増加(16万4200t 21万1800t)。なお、当期同生産は日産22万tを計画していたが、6月下旬に予定外の補修を実施したため計画数量を下回った。
- PT-FIのDeep Ore Zone(DOZ)の鉱石生産は日産4万2300tで、日産生産能力3万5000tを上回って操業を実施。DOZには最新の碎鉱機を導入する計画で同能力を5万tに強化する計画。

(2) 財務状況

(千USドル)

	2004年 第2四半期	2004年 第3四半期	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期
売上高 Revenues	486,334	600,556	924,791	803,065	902,909
営業利益 Operating income	46,702	148,636	466,862	357,599	430,443
純利益 Net income	53,311	17,133	212,505	130,395	175,247
探鉱費	2,787	1,963	1,687	1,920	2,342

(3) 生産状況

1) 主要鉱産物の生産状況

鉱産物	2004年 第2四半期	2004年 第3四半期	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期
銅鉱石(千t)	94.9	116.3	192.2	152.2	137.1
金(t)	10.3	9.6	17.8	17.3	16.8
銅地金(千t)	40.5	75.0	74.0	76.0	76.0

注)生産量は金属純分

2) 主要保有鉱山、製錬所の生産状況

(千t)

鉱山名、製錬所名	2004年 第2四半期	2004年 第3四半期	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期
Grasberg 鉱山(85.6%)	94.9	116.3	192.2	152.2	137.1
Huelva 精錬所(100%)	30.6	59.5	57.7	59.7	62.5
Gresik 精錬所(25%)	9.9	15.5	16.3	16.3	16.6

注)生産量は権益分

(4) その他

- 同社は、Grasberg 鉱山の持分ベースで、今年の銅販売は14億7000万lb、金は280万ozと

予想。

- ・2005 年は Mill Level Zone (MLZ) 及び Deep MLZ 鉱床の北西方向部、Deep Grasberg Resources 延長方向、Dom 鉱床下部への探鉱を集中実施の予定。
- ・既設粉碎工場近傍の高品位鉱床部 Big Gossan (粗鉱量 4400 万t、銅品位 2.5%、金 1.2g/t) の開発を展開中である。
- ・Freeport McMpRan はインドネシア政府が所有するグラスベルグ鉱山の権益 9.36% を第 3 社に売却することに同意。政府所有株式は、国営公社 ANTAM に委譲される予定。

	第 2 四半期	前年同期	今年上半期	前年同期
売上	902.9	486.3	1,705.9	846.5
PT-FI	751.5	392.2	1,526.6	584.7
銅	480.0	251.1	995.0	388.7
金	264.0	136.1	515.0	187.3
銀	7.4	4.9	16.5	8.7
粗利益	413.3	111.9	857.3	138.9
銅	268.5	68.0	564.0	96.8
金	140.8	42.3	284.1	40.2
銀	3.9	1.5	9.1	1.8
営業利益	430.4	46.7	788.0	88.0
純利益	190.3	(38.2)	335.8	(57.6)
EPS	0.91	(0.30)	1.62	(0.39)
PT-FI				
銅生産	302.3	209.3	637.9	316.4
銅販売	313.7	205.1	641.8	310.5
平均実現販売価格(lb 当たり US ドル)	1.53	1.22	1.54	1.24
金生産	591.3	634.9	1,200.7	490.2
金販売	616.4	351.1	1,211.7	474.9
平均実現販売価格(oz 当たり US ドル)	428.23	389.97	427.54	393.8

(単位は百万 US ドル、カッコは赤字、生産出荷は銅が百万 lb、金・銀は千 oz)

7. KGHM

2005年第2四半期は、銅生産量は前年同期とほぼ同レベルとなったものの、銀生産量は製錬所のメンテナンス休止の影響で15%減。売上高は、対米ドル PLN(現地通貨)高、銅・銀価格高により、前年同期比7.6%増となったが、生産コストが上昇し、純利益は7.8%減。

1. トピック

- ・ 2005年第2四半期の売上高は、現地通貨(PLN:ズオティ)ベースで前年同期比7.6%増。
 - 対米ドル平均為替レート(PLN)は3.28PLN/USDで、前年同期比15.7%高
 - LME銅地金平均価格は3,394USD/tで、前年同期比21.8%高
 - LBM(London Bullion Market)銀平均価格は230USD/kgで、前年同期比14.4%高
 - 銅及び銅製品販売量は、前年同期とほぼ同レベル
 - 銀及び銀製品販売量は、主にHM Glogow製錬所の貴金属プラントにおけるメンテナンス休止があった影響で21.5%減
 - 売上高に占める割合は、銅及び銅製品が84.2%、銀及び銀製品が11.3%
- ・ 2005年第1四半期の純利益は、現地通貨(PLN:ズオティ)ベースで前年同期比7.8%減。
 - 原材料費の上昇(燃料、採掘機器、購入精鉱、購入粗銅)
 - 労務費の上昇(2005年1月からの^{ハーフ}アップ9.25%、休日勤務手当の支給、ボーナスの増加)
- ・ コンゴ民主共和国における湿式製錬所の建設

KGHMは、コンゴ民主共和国のKimpeにおける湿式製錬所建設プロジェクトに関し、2005年7月13日にカタンガ州環境保全局より開発許可を取得した。このプロジェクトにはカナダのエンジニアリング企業であるDynatec社が参加している。

2. 財務状況

(千 PLN)

	2004年 第2四半期	2004年 第3四半期	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期
売上高 Net Revenues	1,718,896	1,366,906	1,570,619	1,671,459	1,849,713
営業利益 Operating profit	523,502	242,140	214,845	497,009	510,156
純利益 Net profit	537,570	247,721	172,288	523,016	495,566
探鉱費	-	-	-	-	-

3. 生産状況

1) 主要鉱産物の生産状況

鉱産物	2004年 第2四半期	2004年 第3四半期	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期
銅地金(t)	136,443	142,163	139,460	130,778	133,538
銀(kg)	349,239	310,127	368,318	303,903	296,604

注)生産量は金属純分

8. Falconbridge (Noranda を含む)

金属の実勢価格の高騰、Antamina モリブデン精鉱の大幅な売上増、ニッケルの販売量増で、2005年第2四半期の総売上は昨年同期の16.9億ドルを上回り21.24億ドルに。

(1) トピック

- ・ 6月30日、Falconbridge社の買収を完了。新会社名はFalconbridgeLtd.と決定。2社合併により北米最大のベースメタル生産会社のひとつに。
- ・ 昨年同期に比べ、生産量がニッケル6%増で1.3万トン、亜鉛3%増で13万トン。銅アノード16%、銅カソード14%、ニッケル精鉱26%とそれぞれ増加。
- ・ 銅生産量の減少はCollahuasi製錬所のミルの閉鎖によるもの。
- ・ Altonorteモリブデンロースターの改修工事が完了。予算内で予定通り生産を開始。

(2) 財務状況

(単位:百万USドル)

	2004年 第2四半期	2004年 第3四半期	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期
売上高	1694	1716	1915	1976	2124
営業利益*	280	377	365	455	464
当期損益	107	133	158	176	202
探鉱費**	12	14	14	12	15

*売上高からコスト、原価償却分を差引した値。営業費、一般管理費、R&D、探鉱費等はコストに含まれない。

**調査、開発、探鉱費を含む

(3) 生産状況

1) 主要鉱産物の生産状況

(単位:千t)

鉱産物	2004年 第2四半期	2004年 第3四半期	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期
銅鉱石(銅金属純分)	122	136	133	119	115
銅地金	108	117	134	122	125
ニッケル鉱石	19	21	21	21	13
ニッケル地金	23	23	28	28	29
亜鉛鉱石	126	141	116	117	130
亜鉛地金	36	23	34	38	36

注)主要鉱産物の合計

2) 主要保有鉱山、製錬所の生産規模

(単位:千t)

鉱山名、製錬所名	2004年 第2四半期	2004年 第3四半期	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期
Collahuasi 銅鉱山(44%)	35	46	65	58	47
CCR 銅精錬所	78	68	63	79	67
Sudbury 鉱山(Ni)	6	7	6	4	6
Nikkelverk 精錬所(Ni)	16	16	20	21	21
Brunswick 鉱山(亜鉛)	62	65	68	67	72
Kid Creek 精錬所(亜鉛)	36	23	34	38	36

注)生産量の最も多い鉱山・精錬所の主要鉱産物を記載

9 . Antofagasta

2005 年第 2 四半期は、グループのキャッシュコストはモリブデン価格高水準化で前期に引き続き最低記録を更新

(1)トピックス

- ・第 2 四半期銅生産量は 108,500t で前期に比べ 10,400t 減少、Los Pelambres 鉱山では機器定期点検および露天採掘計画の関係で 6,200t 減少した。
- ・第 2 四半期のモリブデン生産量は鉱石品位の上昇と回収率の向上により前期比 300t 増の 2,500t を記録した。
- ・第 2 四半期 Los Pelambres 鉱山のキャッシュコストはモリブデンクレジット効果 126.8¢/lb により-50.6¢/lb を記録した。モリブデンクレジット効果を除いたキャッシュコストは 6 月スポット売鉱の TC/RC 高騰および生産量低下で前期に比べ上昇した。

(2)財務状況

(単位:百万ドル)

	2004 年 上期	2004 年 下期	2005 年 上期
売上高	753.4	1,188.7	1,123.6
営業利益	426.9	776.5	739.0
当期損益	336.2	620.4	607.5

(3)生産状況

1) 主要鉱産物の生産状況

(単位:千t)

鉱産物	2004 年 第 2 四半期	2004 年 第 3 四半期	2004 年 第 4 四半期	2005 年 第 1 四半期	2005 年 第 2 四半期
銅鉱石	126.4	130.7	132.2	118.8	108.5
モリブデン鉱石	1.9	2.1	2.1	2.2	2.5
キャッシュコスト (¢/lb)	21.9	24.9	11.6	-8.0	-9.6

注)生産量は銅金属純分

2) 主要保有鉱山生産状況

(単位:千t)

鉱山名	2004 年 第 2 四半期	2004 年 第 3 四半期	2004 年 第 4 四半期	2005 年 第 1 四半期	2005 年 第 2 四半期
Los Pelambres (60%)	92.6	93.5	92.1	80.6	74.4
El Tesoro (61%)	22.9	24.6	26.3	26.3	23.6
Michilla (74.2%)	10.9	12.6	13.8	11.9	10.6

注 1) 生産量は銅金属純分

注 2) Los Pelambres 鉱山は硫化精鉱のみ、El Tesoro 鉱山及び Michilla 鉱山はカソードのみを生産

注 3) モリブデン生産は Los Pelambres 鉱山のみ

(4)その他

特になし

10. Anglo American

ベースメタル部門の営業利益は、銅・ニッケル・亜鉛価格の上昇を背景として、前年同期比 27%増の 721 百万ドル。2004 年 12 月に Hudson Bay 鉱山(カナダ)を売却した影響で、銅・亜鉛生産量は減少した。

1. トピック

- ・ Codemin ニッケル鉱山(ブラジル)では5月に、予定されていた生産能力に増強された。2つのニッケルプロジェクトにおける合計生産量は、年間1万tとなる見込み。
- ・ Skorpion 亜鉛鉱山(ナミビア)では6月に、予定されていた生産能力に増強された。
- ・ Los Bronces, Collahuashi 銅鉱山(チリ)の周辺拡張計画が実施中。
- ・ Chagres 銅製錬所(チリ)の増強工事は、2005年第4四半期に完成予定。
- ・ Barro Alto ニッケルプロジェクトのFSは、2006年前半に完了する見込み。

2. 財務状況

(百万 USドル)

	2004 年 上半期	2004 年 下半期	2005 年 上半期
売上高	15,299	16,639	17,145
営業利益	2,325	2,372	2,975
当期利益	2,226	1,275	1,838
探鉱費(総額)	56	64	67
金	(19)	(24)	(22)
ベースメタル	(18)	(23)	(20)
白金族	(11)	(2)	(9)

3. 生産状況

1) 主要鉱産物の生産状況

鉱産物	2004 年 上半期	2004 年 下半期	2005 年 上半期
銅鉱石(t)	363,900	402,100	315,600
ニッケル(t)	11,700	12,300	12,600
亜鉛(t)	203,200	207,500	153,800
鉛(t)	26,300	28,400	29,800
金(オンス)	2,932,000	3,327,000	3,138,000
白金(オンス)	1,182,700	1,315,500	1,291,400
パラジウム(オンス)	634,900	696,900	731,700
ロジウム(オンス)	109,300	149,300	175,700

注)生産量は金属純分

金生産量は、AngloGold 社分。2004 年上半期は、Gold Fields 社分を含む。

4. その他

2005 年上半期の収益比率は、ベースメタル部門が 25.3%、鉄鉱石・合金鉄部門が 19.9%、ダイヤモンド部門が 13.0%、石炭部門が 12.7%、白金族部門が 12.5%など。

11. Placer Dome

2005年第2四半期は経費の増加、銅生産の減少、金のヘッジングなどが要因となり、700万ドルの損失となった。

(1) トピック

- ・ 金の実勢販売価格が金のヘッジングにより現物価格より36ドル低い391ドルとなったことから、今期の業績に大きく影響。
- ・ 今期行われた探鉱調査でタンザニアのNorth Mara 鉱山の第二露天採掘現場であるGokona ピットは本年6月から生産を開始したが、第1ステージのNyabirama ピットより高品位であることを確認。また、Gokona 及び Nyabigena ピットの下に重要ゾーンがあることが確認され、今後坑内採掘が可能であるとの予備的評価を得た。
- ・ Placer Dome が51%所有するオンタリオ州 Porcupine 鉱山の Pamour 露天掘りピットが6月から生産開始。同鉱山から今後10年間に160万オンスの金の生産を見込む。

(2) 財務状況

(単位:百万USドル)

	2004年 第2四半期	2004年 第3四半期	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期
売上高	467	453	460	491	460
営業利益*	137	109	78	104	78
当期損益	33	148	39	31	-7
探鉱費	17	19	25	18	23

*売上高からコスト、原価償却分を差引した値。営業費、一般管理費、R&D、探鉱費等はコストに含まれない。

(3) 生産状況

1) 主要鉱産物の生産状況

鉱産物	2004年 第2四半期	2004年 第3四半期	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期
金(万オンス)	90.8	88.8	92.7	91.1	91.6
銅(t)	49,442	45,813	42,184	41,277	9.0

注)主要鉱産物の合計

2) 主要保有鉱山、製錬所の生産規模

鉱山名、製錬所名	2004年 第2四半期	2004年 第3四半期	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期
Porgera(Au)(万オンス)	18.7	18.1	20.4	18.6	16.6
Cortez(Au)(万オンス)	17.3	15.8	13.0	13.2	16.4
Zaldvar(Cu)(t)	39,009	35,380	34,019	33,566	6.7

注)生産量の最も多い鉱山の主要鉱産物を記載

12. Inco

期中平均ニッケル価格は過去 16 年の最高値、第 2 四半期利益は 215 百万ドル。

(1) トピック

- ・ 期中の平均ニッケル LME 価格はポンド当たり 7.44 ドルと、四半期ベースで過去 16 年の最高値となった。これを受け 2 四半期利益は 215 百万ドルと、前年同期の赤字決算から大幅改善。
- ・ 2005 年 4 月にニューカレドニア・Goro プロジェクト(住友金属鉱山および三井物産 21%、インコ 69%、地方政府 10%)につき、鉱山建設は 2005 年 5 月の段階で全体の 45%が完工。インフラを含めた全体の建設費は当初予定額の 18.78 億ドルの-5%から+15%の範囲。5 月末時点で計画の全ての関係許認可を取得できてはいないが、これが進捗を遅らせる要因とはならない見通し。
- ・ Voisey's Bay は当初スケジュールに従い順調に進捗。剥土とミル建設からなる Phase I の工事はその 95%が完工。2005 年 8 月には最初の精鉱を生産、また 2006 年にはニッケル地金を生産開始の計画に変更は無い。これに伴い 2006 年の同社ニッケル生産量は、地金換算で 24 万トンとなる見通し。
- ・ マニトバ州における操業について、米国鉄鋼労働組合に所属する労働者と次期契約条件を巡る協議に着手した。現在の契約は 9 月 15 日に失効する。
- ・ 2005 年第 3 四半期の生産量は低下する見通し。これは、来期オンタリオ州の操業をいったん中断しメンテナンスと脱硫装置の改善を予定するが、期間が長引く見通しであること、また、エネルギーコストの上昇がその理由である。

(2) 財務状況

(単位:百万 US ドル)

	2004 年 第 2 四半期	2004 年 第 3 四半期	2004 年 第 4 四半期	2005 年 第 1 四半期	2005 年 第 2 四半期
売上高	1002	1048	1177	1122	1196
営業利益*	360	421	464	458	516
当期損益	-14	148	223	313	215
探鉱費	6	7	13	9	11

*売上高からコスト、原価償却分を差引した値。営業費、一般管理費、R&D、探鉱費等はコストに含まれない。

(3) 生産状況

1) 主要鉱産物の生産状況

鉱産物	2004 年 第 2 四半期	2004 年 第 3 四半期	2004 年 第 4 四半期	2005 年 第 1 四半期	2005 年 第 2 四半期
ニッケル (千 t)	59.5	53.3	66.1	55.5	55.9
銅 (千 t、出荷量)	30.4	35.1	29.7	32.6	26.6
コバルト (t、出荷量)	358	278	514	456	381
PGM(千 oz、出荷量)	75	117	81	108	132

注) 鉱種別インコ社生産量を示す。

13. Newmont

2005年第2四半期に Golden Grove 鉱山(豪)を売却。

1. トピック

- ・Golden Grove 金・亜鉛・銅鉱山を Oxiana 社(豪)に 205 百万 US ドル(147 百万 US ドルは cash で、残りは 58 百万 US ドル相当の Oxiana 社株式で)売却。
- ・2005 年第 2 四半期の当期利益は 50 百万 US ドルと前年同期比 35%増益。
- ・金生産は 1.537 百万 oz に減少、前年同期比 6%減産。
- ・銅鉱山生産は前年同期比 2,054t 減少し 36%減産。
- ・Batu Hijau 鉱山同年前期より生産が回復したものの前年同期より 24%減産。

2. 財務状況

(千 US ドル)

	2004 年 第 2 四半期	2004 年 第 3 四半期	2004 年 第 4 四半期	2005 年 第 1 四半期	2005 年 第 2 四半期
売上高	982,000	1,162,691	1,230,042	961,000	1,006,000
営業利益	NA	310,764	360,678	188,000	NA
純利益	37,000	128,727	181,623	84,000	50,000
探鉱費	47,000	54,093	53,416	45,000	53,000

3. 生産状況

1) 主要鉱産物の生産状況

鉱産物	2004 年 第 2 四半期	2004 年 第 3 四半期	2004 年 第 4 四半期	2005 年 第 1 四半期	2005 年 第 2 四半期
金(千 oz)	1,638	1,734.7	1,797.9	1,551	1,537
銅鉱石(t)	57,470	55,308	47,291	30,485	36,935
亜鉛鉱石(t)	8,936	3,436	5,996	13,624	NA

注)生産量は金属純分

2) 主要保有鉱山、製錬所の生産状況

(千 oz、t)

鉱山名、製錬所名	2004 年 第 2 四半期	2004 年 第 3 四半期	2004 年 第 4 四半期	2005 年 第 1 四半期	2005 年 第 2 四半期
Nevada(100%)	560.0	570.4	668.2	557.5	569.4
Yanacocha(51.35%)	317.7	397.0	436.0	396.9	370.9
Batu Hijau(45%)	48,497	52,105	40,992	24,733	36,935

注)生産量は権益分

4. その他

- ・第 2 四半期の探鉱予算は 53 百万 US ドルで前年同期比 13%増となった。内訳は、グラスルート探鉱に 39 百万 \$ (前年同期比 34%増)、事業化調査及び開発に 14 百万ドル(前年同期比 22%減)充てられた。

14. Teck Cominco

2005年第2四半期利益は、昨年同期比で倍増、225百万ドルと過去最高の水準。

(1) トピック

- ・ 銅、モリブデン、石炭の高値から営業利益は 417 百万ドルと過去最高。半期の株主配当も一株 40 セントと倍増。
- ・ アラスカ・ポゴ金山は 2006 年第 1 四半期中の出鉱を目標に建設進行中。
- ・ Trail 精錬所では 7 月 19 日より組合労働者によるストライキが発生。これに伴い、生産物販売に関するフォースマジュールを宣言。
- ・ 石炭増産に向けての開発投資。Fording River 鉱山の拡張(年産 1.0 百万トン増)は 2005 年第 3 四半期に完了予定。Cardinal River 鉱山の Chebit Pit(年産 2.8 百万トン)の新規開発は第 4 四半期に完了予定。

(2) 財務状況

(単位:百万 US ドル)

	2004 年 第 2 四半期	2004 年 第 3 四半期	2004 年 第 4 四半期	2005 年 第 1 四半期	2005 年 第 2 四半期
売上高	835	978	1051	928	994
営業利益*	229	338	392	329	417
当期損益	116	120	285	205	225
探鉱費	10	12	14	5	14

*売上高からコスト、原価償却分を差引した値。営業費、一般管理費、R&D、探鉱費等はコストに含まれない。

(3) 生産状況

1) 主要鉱産物の生産状況

(単位:千t)

鉱産物	2004 年 第 2 四半期	2004 年 第 3 四半期	2004 年 第 4 四半期	2005 年 第 1 四半期	2005 年 第 2 四半期
銅鉱石 (千t)	63	66	71	61	63
亜鉛鉱石 (千t)	153	171	149	161	162
亜鉛地金 (千t)	104	110	102	71	72
鉛地金 (千t)	22	21	25	21	21
モリブデン(千ポンド)	N/A	N/A	3,234	2,599	2,354
石炭 (千t)	2,528	2,175	2,464	2,527	2,673

注)主要鉱産物の合計

2) 主要保有鉱山、製錬所の生産規模

鉱山名、製錬所名	2004 年 第 2 四半期	2004 年 第 3 四半期	2004 年 第 4 四半期	2005 年 第 1 四半期	2005 年 第 2 四半期
Red Dog 鉱山(Zn) (千 t)	139	153	132	136	135
HighlandValley (Cu) (千 t)	41	43	46	38	41
Highland Valley (Mo)(千ポンド)	N/A	N/A	2,404	1,965 30	1,631
ElkValley Coal Partnership (Coal) (千 t)	2,528	2,175	2,464	2,527	2,673

注)生産量の最も多い鉱山・精錬所の主要鉱産物を記載

・その他企業の動向、主要国の生産統計

1. 豪州企業の 2005 年第 2 四半期報告レビュー

オーストラリア鉱業は依然、最も好調な市場のひとつであり、産業界及び市場関係者双方とも鉱物資源価格は今後も堅調であると予想している。堅調な鉱物資源価格は非鉄各社の収益増加の主たる要因となっているが、豪ドル高がマイナス要因となっていることに加え、労働者不足・材料等の価格上昇が生産コストを押し上げている。

殆どの現場が、需要、特に中国需要に応えるため、生産能力或いはそれに近いレベルで操業している。今期は大きな事故或いはメンテナンスに関する問題は報告されていない。

今期、最大の話題は、BHP Billiton 社が WMC Resources 社を 100% 買収し、その結果として Olympic Dam 銅・金・ウラン鉱床を取得したことである。

ALUMINA Ltd.

(1) 財務状況

百万豪ドル	2004 後期	2005 前期	コメント
売上 (turnover)			・2%の減益は、2004 年の結果及びアルミナ価格の上昇を豪ドル高とコストの上昇が相殺によるものとの見込みに符合している。
純利益 (Net Profit)	168	163.3	
損益 (Loss)			
探鉱支出			

(2) 生産状況

鉱種	2004 後期	2005 前期	コメント
アルミナ (Mt)	6,527	6,776	Suralco 精錬所 (生産能力 250,000t/年) の拡張は今年初めに完了したが、ボーキサイト供給と設備上の問題から生産障害が生じた。

(3) 探鉱・開発状況

- ・Suralco 精錬所の生産能力 250,000t/年への拡張完了。
- ・Pinjarra の 657,000t/年への拡張実施中。2006 年初めには拡張生産開始予定。
- ・Jamalco 精錬所の 1.5 百万 t/年の拡張工事開始 (費用 12 億米ドル)。2007 年末に完了予定。

ALCOA WORLD ALUMINA AND CHEMICALS (AWAC)

(1) 財務状況

- ・Alcoa 社のアルミナ部門の税引き後営業収益は、第三者への販売価格上昇と自社製錬所への供給増により、第 1 四半期より 21 百万豪ドル (13%) 増の 182 百万豪ドルとなった。

百万 US ドル	2004 後期	2005 前期
売上 (turnover)	2,015.8	2,172.1
純利益 (Net Profit)	311	309.3
損益 (Loss)	-1,562.10	-1,713.6
探鉱支出	-	-

(2)生産状況

鉱種	2005 1/四	2005 2/四
アルミナ (kmt)	3,583	3,637

CBH RESOURCES Ltd.

(1)財務状況

- ・CBH社は、Triako Resources社の株式6.5%を取得し、筆頭株主となった。
- ・銀資産を50百万豪ドルで売却することにCoeur d'Alene社(米国)と合意。20百万豪ドルの支払いが完了。更に、銀1oz当たりUSドル1.00を受取るになっている。

千豪ドル	2004 後期	2005 前期
売上 (turnover)	71,052.00	
純利益 (Net Profit)	5,011	
損益 (Loss)		
探鉱支出	154	

(2)生産状況

- ・Endeavor 鉱山は、ペースト充填による鉱柱回収に成功。鉱石250,000t以上の供給が見込まれ、第3、4四半期の生産増強が見込まれる。

鉱種	2005 1/四	2005 2/四	コメント
亜鉛 (t)	18,099	15,022	ペースト充填の影響で発破に制限。生産量は減少 (亜鉛量で17%減; 鉛量で16%減)
鉛 (t)	9,540	7,970	

(3)探鉱・開発状況

- ・Sulphur Springs 銅・亜鉛鉱床(西オーストラリア州)の探鉱を新たに開始。
- ・Endeavor 鉱山の銅精鉱生産施設(建設費150万豪ドル)が操業開始。第3四半期には計画生産量に達する見込み。
- ・Newcastleの鉱石積出し施設建設は予算・スケジュール通りに進行中。第3四半期には完了予定。

CONSOLIDATED MINERALS Ltd.

(1)財務状況

千豪ドル	2004 後期	2005 前期
売上 (turnover)	159,746	
純利益 (Net Profit)	40,957	
損益 (Loss)		
探鉱支出	4,306	

(2)生産状況

鉱種	2005 1/四	2005 2/四	コメント
マンガン (t)	139,374	192,273	処理プラント及び探鉱船の更新によりPilbara地区の生産増加
クロム (t)	62,010	58,694	
ニッケル (t)	1,085	816	

ENERGY RESOURCES OF AUSTRALIA (ERA)

(1) 財務状況

千豪ドル	2004 後期	2005 前期
売上 (turnover)		129,801
純利益 (Net Profit)		16,984
損益 (Loss)		
探鉱支出		

(2) 生産状況 (主要鉱種)

鉱種	2005 1/四	2005 2/四	コメント
Production - drummed (tonnes U3O8)	1,464	1,250	2005 年の生産量は前年同期に比べ増加している。これは、プラントの信頼性を高めるためのメンテナンスによるものと、2004 年は 3 月の排水汚染事件の混乱の影響があったため
Ore treated ('000 t)	564	566	

ILUKA RESOURCES Ltd.

(1) 財務状況

百万豪ドル	2005 1/四	2005 2/四
売上 (turnover)	197.90	248.7
純利益 (Net Profit)		
損益 (Loss)		
探鉱支出	3.8	5.3

(2) 生産状況 (主要鉱種)

鉱種	2005 1/四	2005 2/四
ルチル (t)	40,703	46,220
人工ルチル (t)	130,035	139,556
イルメナイト (t)	409,458	421,376
ジルコン (t)	98,918	110,583
リュ-コキッソ/Hyti (t)	3,962	3,249
石炭 (t)	263,059	301,103

JUBILEE MINES NL

(1) 財務状況

千豪ドル	2005 1/四	2005 2/四
売上 (turnover)	58,516	56,911
純利益 (Net Profit)	117.6	19,843.0
損益 (Loss)		
探鉱支出	6,275	7,221

(2)生産状況

鉱種	2005 1/四	2005 2/四
ニッケル精鉱(dmt)	11,533	13,517

MINARA RESOURCES Ltd.

(1)財務状況

- ・2005年6月末、現金(Cash on hand)が100百万豪ドルを超える。
- ・Murrin Murrin 鉱床周辺のニッケルプロジェクトを Sons of Gwalia 社の管財人から取得。

千豪ドル	2004 後期	2005 前期
売上 (turnover)	198,000	
純利益 (Net Profit)	67,000	
損益 (Loss)		
探鉱支出	988	

(2)生産状況

鉱種	2005 1/四	2005 2/四	コメント
ニッケル (t)	5,172	2,842	生産減少 5月の火災と半年毎の3週間の操業停止により
コバルト (t)	323	141	

(3)探鉱・開発状況

- ・Sons of Gwalia 社の取得により、硫化ニッケル鉱床探査ポテンシャルの増加、特に Coglia Well 地区。
- ・Mount Windarra 及び Bardoc Nickel 及び Well Range は探査継続。
- ・Mt Margaret プロジェクトのフォローアップはボーリング設備の手配の遅れから8月に遅延。

NEWCREST MINING Ltd.

(1)財務状況

- ・350百万米ドルの長期債務(private placement debt issue)は完済。
- ・Telfer 鉱山の開始の遅れの影響と銅精鉱の在庫の変動が利益に影響。

(2)生産状況

鉱種	2005 1/四	2005 2/四	コメント
金 (oz)	319,511	339,497	生産は概ね回復。 Cadia Hill 鉱山はメンテナンスのための操業停止を経験。 Telfer 鉱山はコスト高と銅品位低下で、第1四半期に比べ生産減少
銅 (t)	26,354	30,073	

(3)探鉱・開発状況

- ・Cracow は新たな構造を確認
- ・Kencana ボーリングで鉱化帯は延長
- ・Telfer 鉱山の黄鉄鉱プラント建設は順調
- ・Cadia East 鉱床の初期埋蔵量は 600 万 oz

OXIANA Ltd.

(1) 財務状況

- ・Oxiana 社は、Golden Grove 塊状硫化物鉱床 (西オーストラリア州) を 2005 年 7 月 1 日、265 百万豪ドルにて Newmont 社より取得することで合意した。
- ・転換債 US ドル 90,000,000 の発行に成功。

千豪ドル	2005 1/四	2005 2/四
売上 (turnover)	30,123	41,957
純利益 (Net Profit)		
損益 (Loss)		
探鉱支出	14,354	9,245

(2) 生産状況

鉱種	2005 1/四	2005 2/四	コメント
金 (oz)	56,434	54,906	Sepon 鉱山 (ラオス) の新たな拡張で金生産
銅 (t)	--	7,355	Sepon 鉱山の銅プラントは第 2 四半期、計画を上回る進捗

(3) 探鉱・開発状況

- ・高品位銅鉱の結果、Thengkham North 鉱床は継続。
- ・Prominent Hill 鉱床の金量は 100 万 oz 増加。
- ・探査・鉱山開発、持続可能な開発、地域社会との関係などに貢献したことにより年間金会社 (Awarded the Gold Company of the Year Award) に選出される。

PERILYA Ltd.

(1) 財務状況

- ・精鉱 (特に鉛) の生産増加と効率改善の結果、現金コストが 9.3% 減少した。
- ・Korea Zinc Group が筆頭株主となっている。

千豪ドル	2004 後期	2005 前期
売上 (turnover)	84,476	
純利益 (Net Profit)	888	
損益 (Loss)		
探鉱支出	36,533	

(2) 生産状況

鉱種	2005 1/四	2005 2/四	コメント
亜鉛 (kt) (含有)	32	32.6	
鉛 (kt) (含有)	16.1	18.7	鉱石品位と回収率の向上により生産が増加
銀 (Moz)	0.51	0.56	

(3) 探鉱・開発状況

- ・Dasiy Milano はストーピングを順調に開始、金の生産量が増加。
- ・探鉱は Broken Hill 鉱山の Potosi 鉱床と South Mine 鉱床の拡張に集中。
- ・Apex Minerals NL の子会社 Freehold Mining Ltd を通じて Abra ベースメタル鉱床 (西オーストラリア州) JV に参加。Perilya 社は 6 年間で 135 百万豪ドルの探鉱支出で権益 70% を取得。

ZINIFEX Ltd.

(1) 財務状況

・亜鉛市場(特に鉄めっき用)が軟化傾向の中、第2四半期の亜鉛金属販売は生産を上回る状況。

百万豪ドル	2004 後期	2005 前期
売上 (turnover)	932.7	
純利益 (Net Profit)	88.9	
損益 (Loss)		
探鉱支出	-126.8	

(2) 生産状況

・亜鉛及び鉛地金の生産は2004年3月に設定した目標を達成。

鉱種	2005 1/四	2005 2/四	コメント
鉛 (金属) (t)	64,857	62,688	予想品位よりも低品位であったこと、粗粒の鉛精鉱の Karumba への運搬上の問題から生産は減少。
亜鉛 (金属) (t)	156,047	161,241	Budel 製錬所は記録的な生産。Clarksville 及び Rosebery 鉱山の生産は堅調。

(3) 探鉱・開発状況

・Menninnie Dam の JV プロジェクト(南オーストラリア)への参加に Terramin 社と合意。

・Rosebery 鉱山地区でのボーリングで新たな鉱化作用を確認。Boco 探査鉱区で高品位の亜鉛・鉛鉱化作用を捕捉

2. メキシコ・Penoles 社の 2005 年第 2 四半期動向レビュー

2005 年第 2 四半期利益は、金属市況の高水準化により、約 4 倍と大幅増が継続。

(1) トピック

- ・2005 年第 2 四半期の純益は、28 百万ドルと前年同期比 396%(約 4 倍)と大幅増。なお、前期比 42.8%減は、前期にメスカーラ金探査案件(70 百万ドル、P 社権益 56%)売却収入の特殊要因による。6 月末純負債は、427 百万ドル。
- ・第 2 四半期の生産量は、亜鉛地金を除き主要鉱物は自社増産・外部買鉱により増。亜鉛地金の前年同期比 9%減は、精鉱プラント・発電所の定期点検等による。
- ・今後の生産動向は、シエネガ金鉱山の拡張工事が完成し、第 3 四半期より産金計画量が 3.7t/年から 4.7t/年に拡大。10 月試験操業予定のミルピージャス銅鉱山の建設進捗率は 81%。

(2) 財務状況

(単位:百万 US ドル)

	2004 年 第 2 四半期	2004 年 第 3 四半期	2004 年 第 4 四半期	2005 年 第 1 四半期	2005 年 第 2 四半期
売上高	370.4	352.2	380.8	439.6	442.8
営業利益	55.4	61.3	75.0	85.2	76.9
当期損益	7.1	19.2	34.7	49.1	28.1
負債総額	-	423.8	503.7	516.5	534.5
現預金	-	-	-	168.2	107.3
純負債	-	-	-	348.3	427.2
探鉱費	8.0	8.9	10.2	10.2	12.0

(注)P 社 HP より、2004 年:平均値 11.2879 ¤/US ドル、05 年第 1 四半期:11.1821 ¤/US ドル、第 2 四半期:10.9823 ¤/US ドルで換算。

(3) 生産状況(主要鉱産物)

	2004 年 第 2 四半期	2004 年 第 3 四半期	2004 年 第 4 四半期	2005 年 第 1 四半期	2005 年 第 2 四半期
金鉱石 (千 kg)	2.4	2.3	2.4	2.6	2.5
金地金 (千 kg)	5.5	4.7	5.0	7.2	7.3
銀鉱石 (千 kg)	309.7	288.9	339.6	301.7	337.5
銀地金 (千 kg)	552.2	562.3	558.4	623.4	610.9
鉛鉱石 (千 t)	13.2	12.1	13.8	14.6	15.3
鉛地金 (千 t)	32.2	31.4	31.5	36.5	33.8
亜鉛鉱石 (千 t)	52.7	52.3	52.2	52.5	52.8
亜鉛地金 (千 t)	51.3	62.4	62.5	59.6	46.7
ビスマス (t)	238	266	260	250	231

(4) 輸出状況(主要鉱産物)

	2004 年 第 2 四半期	2004 年 第 3 四半期	2004 年 第 4 四半期	2005 年 第 1 四半期	2005 年 第 2 四半期
金地金 (千 kg)	5.8	4.9	5.0	7.0	7.4
銀地金 (千 kg)	465.8	487.8	452.3	502.0	487.5
亜鉛地金 (千 t)	31.1	37.4	46.4	39.6	27.7
ビスマス (t)	239	257	240	220	220

(5) その他

- ・P 社の銅生産は、現在年産 0.5 万t程度と微量であるが、2006 年 1 月からソノラ州ミルピージャス鉱山が銅(SX-EW)年産 5.5 万tを本格操業開始する計画。
- ・P 社の製錬所は、コアウイラ州 Torreón 市内にある MET-MEX と Aleazin の 2 ヶ所。

3. インドネシア・Aneka Tambang の 2005 年第 2 四半期動向レビュー

2005 年第 2 四半期の売上はニッケル販売低調で前年同期並み。

(1) トピック

- ・第 2 四半期の売上はニッケル販売低調で前年同期比 2%減収の 7,150 億 IDR。ニッケル部門は売上が 5,140 億 IDR で同社の売上全体の 72%を占める主力部門。金の売上は 1630 億 IDR で同 23%。
- ・今年上半期の売上累計は 1 兆 3,140 億 IDR で、前年同期の 1 兆 2,950 億 IDR に比べ 1.5%の増収。ニッケル部門が売上全体の 49%、フェロニッケルは 25%、金が 18%を占める。

ニッケル事業

- ・第 2 四半期のニッケル生産は 1,404t と前年同期比 40%減産。これは 2004 年 9 月から 5 ヶ月をかけて実施した定期補修後にフェロニッケル第 2 製錬所で生産障害が発生し予定外の生産中止を実施したため。同製錬所は 9 月から生産を再開する予定。
- ・この減産でフェロニッケル販売は 939t と前年同期比 19%減少。販売減少にもかかわらず、ニッケル相場の上昇を映し、売上は 1,440 億 IDR と同 1%の減収に留まった。フェロニッケル販売価格は同 17%上昇の 7.27US ドル/lb。
- ・ハイグレード・ニッケル鉱石生産は前年同期比 33%減産の 598,103 ウェット・t。これは昨年末の Gebe ニッケル鉱山の採掘中止を受けたもの。同鉱山の貯鉱鉱石による今年ニッケル鉱石生産はハイグレードは 30 万t、ローグレードは 10 万tの予定である。
- ・当期の Limonite 鉱石生産は、Buli 鉱山で大幅な減産を実施したが、151,790t と前年同期比 3%の増産。
- ・一方、ハイグレード・ニッケル鉱石販売は前年同期比 19%増産の 779,849t、一方、Limonite 鉱石販売は 201,273t で同 37%減産。
- ・この結果、当期のニッケル部門の売上は 3690 億 IDR で前年同期比 34%の増収。

金事業

- ・第 2 四半期の金生産は 1,033kg で前年同期比 24%増産。これは Pongkor ニッケル製錬所の補修が完了して生産を再開したことや金鉱石の品位が上昇したため。金増産に連れて、銀生産も 8,046kg と同 43%増産。
- ・当期金販売は 1,151kg で前年同期比 3.6%増加し、相場上伸も伴って売上は 1,500 億 IDR と同 19%の増収。銀の売上は 90 億 IDR で同 26%の増収。銀販売は 4,148kg で前年同期比 41%減少。しかし同相場が 13%上昇した結果、増収決算を確保。

(2) 財務状況

	2004 年 第 1 四半期	2004 年 第 2 四半期	2005 年 第 1 四半期	2005 年 第 2 四半期
売上	565,565	729,522	609,930	714,615
輸出	505,054	657,970	528,299	574,616
フェロニッケル	221,613	144,933	182,816	144,117
ニッケル鉱石				
Saprolite	155,281	339,222	245,105	336,126
Limonite	61,849	51,449	300,018	33,333
金	25,244	72,467	25,171	22,585
銀	9,944	0	5,642	338
国内	60,511	71,552	81,731	139,999

(単位は百万インドネシア・IDR)

US ドルベース輸出高

	2004 年 第 1 四半期	2004 年 第 2 四半期	2005 年 第 1 四半期	2005 年 第 2 四半期
売上	59.2	73.1	56.0	60.1
フェロニッケル	25.9	15.7	19.8	15.0
ニッケル鉱石				
Saprolite	18.3	36.8	26.5	35.2
Limonite	7.2	5.3	3.2	3.5
金	3.0	8.1	2.7	2.3
銀	0.5	0.6	0	0.3

(単位は百万 US ドル)

(3) 生産状況 (生産販売実績)

	2004 年 第 1 四半期	2004 年 第 2 四半期	2005 年 第 1 四半期	2005 年 第 2 四半期
生産				
フェロニッケル(t)	1,929	2,357	1,326	1,404
ニッケル鉱石 (t)	1,070,439	1,034,350	897,238	749,893
Saprolite	759,152	887,376	586,328	598,103
Limonite	1,080,439	1,034,350	897,238	749,893
金 (Kg)	842	834	563	1,033
銀 (Kg)	6,226	5,625	4,770	8,046
販売				
フェロニッケル	1,927	1,153	1,366	939
ニッケル鉱石	882,463	976,975	810,496	981,122
Saprolite	572,755	657,153	588,681	779,849
Limonite	309,708	319,822	211,815	201,273
金 (Kg)	659	1,111	679	1,151
銀 (Kg)	5,207	7,071	7,084	4,148
販売価格				
フェロニッケル	-	6.21 (6.56)	-	7.27 (6.85)
(lb 当たり US ドル)	-		-	
ニッケル鉱石	-	17.13 (18.52)	-	17.46 (16.28)
Saprolite	-	14.15 (23.21)	-	12.30 (12.30)
Wett 当たり US ドル	-	397.32 (412.12)	-	425.37 (427.38)
Limonite	-	6.41 ()	-	7.25 (7.06)

販売価格の () 内の数字は上半期の価格

(4) その他

- ・ 4 月 26 日、102MW の新設発電所 の建設が完了し、フェロニッケル精錬所へ安定的供給。
- ・ 6 月末、FeNi 工場が完成。2005 年第 4 四半期に許認可を取得し商業生産は 2006 年第 1 四半期を目視。
- ・ 6 月 30 日、ANTAM 社は PT-FI の株式 9.36% を取得する国営企業省のレターを受領し、検討を開始している。
- ・ PT Galuh Cempaka (ANTAM 20%) : BDI Mining 社は採掘を開始し、当期ダイヤモンドを生産販売する計画。

- PT Sorikamas Mining(ANTAM 25%): Oropa 社は北スマトラ Sihayo 金鉱床 1 North 及び Sambung 鉱区でボーリング調査を実施し鉱徴を補足、探鉱作業仮説を裏付けるものとして評価。
- 2005 年半ばには北マルク州 Mornopo 鉱山(ニッケル)での生産開始(Saprolite,Limonite)を予定。
- PT Dari Prima(ANTAM 20%) 高品位 Anjing Hitam 鉱床の北北西 20km に位置する Sinar Pagi Maromas A の北西延長部で実施したグリッドサンプリングの結果、亜鉛、鉛の地化学異常を走方向 1.5km、幅 500m にわたって確認。
- PT Cibaliung (ANTAM16.24%) Austindo Resources 社は西豪州 Sipa Exploration 社から Mount Olympus 鉱山の選鉱施設を買収。ANZ 投資銀行から探鉱費 2,600 万 US ドルを調達。Cibaliung プロジェクトは 2006 年半ばの生産を予定。

4. 中国企業の2005年上半期動向レビュー

江西銅業集团公司(Jiangxi)

生産量

	2004年上半期	2005年上半期	前年同期比
銅地金(t)	194,254	226,587	+16.6%

銅陵有色金屬(集團)公司(Tongling)

生産量

	2004年上半期	2005年上半期	前年同期比
銅地金(t)	179,977	189,204	+5.1%

雲南銅業(集團)有限公司(Yunnan)

生産量

	2004年上半期	2005年上半期	前年同期比
銅地金(t)	101,121	154,243	+52.5%

大冶有色金屬公司(Daye)

生産量

	2004年上半期	2005年上半期	前年同期比
銅精鉱(t)	-	11,100	+8.82%
銅アノード(t)	-	89,400	+43.53%
銅カソード(t)	65,450	85,505	+31.32%

金川集團有限公司(Jinchuan)

(1) 財務状況

営業収入 : 102.25 億元 (年度計画の 78.7% を達成)

(2) 生産量

	2004年上半期	2005年上半期	前年同期比
銅(中間製品含む)(t)	64,826	77,800	+20%
銅カソード(t)	63,450	77,000	+21.36%
ニッケル(t)	42,776	45,900	+7.3%
コバルト(t)	1,298	2,000	+54.6%
白金族(kg)	1,030	1,250	+21.4%

葫芦島有色公司

(1) 財務状況

工業生産額 : 22.68 億元(対前年同期比 33.09%増)

営業収入 : 24.02 億元(対前年同期比 28.01%増)

(2) 生産量

(単位:t)

	2005 年上半期	前年同期比
金属生産量(t)	148,000	+7.60%
銅カソード(t)	26,000	+4.42%

中条山有色公司

生産量

	2005 年上半期	前年同期比
銅アノード(t)	13,903	+0.64%
銅カソード(t)	46,336	+18.42%

5. カザフスタン企業の 2005 年上半期動向レビュー

Kazakhmys

(1) トピック

- ・中国の新疆 Jinyu Corporation(Jinyu 社)と、東カザフスタン州の Aktogai-Aidarly 銅鉱床を共同開発する基本協定を締結。さらに、同州 Kosmurun-Akbastau 鉱床も開発対象とすることにより、東カザフスタン州とも協定を締結。Kazakhmys 社は電力・用水などインフラ設備の整備と地域社会開発を行う。

(2) 生産量

	2004 年上半期	2005 年上半期	前年同期比
電気銅(t)	212,090	199,700	-5.8%
銅ワイヤロッド(t)	25,960	5,900	-77.3%
亜鉛地金(t)	-	28,600	-
金地金(kg)	1,105	1,450	+31.2%
銀グラニューール(t)	257.6	329	+27.7%

Kazzinc

(1) トピック

- ・東カザフスタン州 Zyrianovsk 地域の Solovyevsky Bloc(亜鉛・鉛・銅)探鉱プロジェクトを計画しており、2年間で探鉱費 4 百万 US ドルを予定。
- ・Ust-Kamenogorsk Metallurgical Complex(亜鉛・鉛製錬所)の排煙脱硫装置を設備化計画に、40 億テンゲ(約 29.6 百万 US ドル)を投入予定。

(2) 生産量

	2005 年 第 1 四半期
亜鉛地金(t)	70,980
銅精鉱(t)	16,300
粗銅(t)	956,500
鉛(t)	23,800
金(kg)	1,590
銀(t)	31.2

・主要国、主要鉱山の生産統計

1. 主要国の生産統計

(1) チリの生産量

(単位:t)

	2004												年計
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
銅生産量	385,645	373,190	422,636	433,499	450,650	445,732	474,201	464,467	449,410	485,458	466,132	516,943	5,388,427
電解銅	190,766	179,525	203,178	202,748	181,765	188,859	203,534	206,640	203,822	208,661	215,316	221,030	2,404,242
精鉱	203,202	194,590	203,601	238,112	273,863	241,690	242,320	230,896	224,737	260,776	232,052	259,226	2,811,969
その他		2,063	15,857	1,819	2,098	15,183	28,347	26,931	20,851	16,021	18,764	36,687	172,216

	2005					
	1月	2月	3月	4月	5月	6月
銅生産量	431,072	365,494	446,370	406,685	454,720	411,802
電解銅	167,019	164,762	207,006	189,655	194,919	176,072
精鉱	238,042	188,426	231,303	195,995	238,538	218,710
その他	26,011	12,306	3,120	3,098	21,263	17,020

出典:チリ統計局

(四半期ベース;JOGMEC まとめ)

(単位:t)

鉱産物	2004年 第2四半期	2004年 第3四半期	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期	前年 同期比
銅生産量	1,329,881	1,388,078	1,468,533	1,242,936	1,273,207	-4.3%
電解銅	573,372	613,996	645,007	538,787	560,646	-2.2%
精鉱(銅含有量)	753,665	697,953	752,054	657,771	653,243	-13.3%
その他	19,100	76,129	71,472	41,437	41,381	

(2) ペルーの生産量

(単位:t)

鉱産物	2004年 第2四半期	2004年 第3四半期	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期	前年 同期比
銅	173,000	344,000	274,000	242,998	238,918	+38.1%
金	34.1	47.5	44.3	44.473	44.049	+29.2%
亜鉛	361,000	254,000	283,000	310,213	304,471	-15.7%
鉛	83,000	71,000	78,000	77,364	75,706	-8.8%
銀	762	827	787	783.72	772.28	+1.3%
錫	9,900	11,300	10,600	10,160	10,648	+7.6%
モリブデン				4,250	4,075	

出典:エネルギー鉱山省

(3) 中国の生産量

(単位:t)

鉱産物	2004年 第2四半期	2004年 第3四半期	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期	前年 同期比
銅精鉱	154,092	157,484	157,623	156,749	221,580	+43.8%
銅地金	516,737	516,662	536,945	546,103	630,214	+22.0%
亜鉛精鉱	296,977	593,790	491,471	338,430	450,375	+51.7%
亜鉛地金	413,699	834,646	692,053	613,638	668,544	+61.6%

出典:安泰科

(4) カザフスタンの生産量

(単位:t)

鉱産物	2004年 上半期	2004年 下半期	2005年 上半期	前年 同期比
銅	218,549	228,591	210,984	-3.4%
亜鉛精鉱	174,000	185,200	172,400	-0.9%
亜鉛地金	149,301	167,214	179,984	20.6%
鉛精鉱	16,500	16,300	14,200	-13.9%
鉛地金	61,170	95,830	63,689	4.1%
アルミナ	721,867	698,127	746,491	+3.4%
金	4.755	5.2	4.7	-0.1%
銀	339.3	478.0	404.7	+19.3%

出典:カザフスタン国家統計庁(生産量)

Bitimbaev レポート 2005.04(輸出量)

(5) メキシコの実生産量

鉱種	2004									
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年計
金(kg)	2,398	2,073	2,188	2,117	1,928	1,718	1,969	1,716	1,971	18,078
銀(kg)	265,536	244,495	276,115	259,627	269,212	243,619	238,078	250,911	240,724	2,288,317
銅(t)	34,928	27,685	30,329	20,657	28,340	29,881	26,345	27,741	30,602	256,508
鉛(t)	12,191	11,235	11,458	11,980	12,017	10,077	11,770	11,404	10,449	102,581
亜鉛(t)	26,994	29,760	30,482	31,353	32,366	30,515	35,618	33,510	34,070	284,668

鉱種	2005					
	1月	2月	3月	4月	5月	6月
金(kg)	2,310	2,242	2,720	2,496	2,778	1,438
銀(kg)	248,333	222,463	258,497	240,033	276,334	260,129
銅(t)	30,014	27,107	32,034	27,992	34,763	33,035
鉛(t)	13,735	11,754	14,456	13,508	11,232	10,836
亜鉛(t)	36,395	32,251	36,151	24,649	31,555	30,404

出典:メキシコ国立統計地理情報院

(四半期ベース; JOGMEC まとめ)

(単位:t)

鉱産物	2004年 第2四半期	2004年 第3四半期	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期	前年 同期比
金(kg)	6,659	5,763	5,656	7,272	6,712	+0.8%
銀(kg)	786,146	772,458	729,713	729,293	776,496	-1.2%
鉛(t)	92,942	78,878	84,688	89,155	95,790	3.1%
銅(t)	34,884	34,074	33,623	39,945	35,576	2.0%
亜鉛(t)	87,236	94,234	103,198	104,797	86,608	-0.7%

(6) ポリビアの実生産量

(単位:t)

鉱産物	2005年 上半期	前年 同期比
亜鉛	75,676	+8.8%
錫	8,843	+8.4%
銀	202	

出典:鉱業冶金省

2. 主要鉱山の生産統計

2-1. チリの主要鉱山生産

チリの主要鉱山の2005年上期銅生産量合計は2,508,900tと前年同期比1.5%減(チリ全体の生産量では2,522,131tで前年同期比0.9%減)で、概ね前年並みの生産量を維持している。前年同期比ではCollahuasi鉱山で19,600t(10.2%)、El Teniente鉱山で23,300t(12.4%)増産している一方CODELCO Norte ディビジョンで38,000t(-8.8%)、Zaldivar鉱山で14,100t(-18.1%)、Los Pelambres鉱山で10,300t(-6%)の減産となった。チリでは年末にかけて増産する傾向があり、SONAMI(チリ鉱業協会)は、前年比3%増の560万tに、またCOCHILCOは2.6%増の555万tに近くなるものと予測している。

表 2005年上半期鉱山別銅生産量

(単位:t)

鉱山名	2004年	2004年上期(a)	2005年上期(b)	前年同期比
Escondida	1,195,155	597,900	595,700	99.6
CODELCO Norte	982,818	431,800	393,600	91.2
Collahuasi	480,976	191,700	211,300	110.2
El Teniente	435,658	187,400	210,700	112.4
Los Pelambres	362,616	170,600	160,300	94.0
Sur Andes	300,607	150,700	150,400	99.8
Andina	239,862	115,900	123,700	106.7
El Abra	218,007	112,600	103,300	91.7
Candelaria	199,997	97,200	85,700	88.2
Mantos Blancos	154,990	75,400	71,400	94.7
Zaldivar	147,602	78,000	63,900	81.9
Cerro Colorado	119,476	59,400	54,400	91.6
El Tesoro	97,763	46,900	49,900	106.4
Quebrada Blanca	76,333	38,200	38,800	101.6
Salvador	74,875	32,800	34,100	104.0
Lomas Bayas	62,041	30,600	32,500	106.2
Michilla	50,018	23,600	22,600	95.8
Others	213,769	107,600	106,600	99.1
TOTAL	5,412,563	2,548,300	2,508,900	98.5

(出典: COCHILCO Boletín Mensual Julio 2005)

Sur Andes生産量はLos Bronces鉱山とEl Soldado鉱山の合計

Mantos Blancos生産量はMantos Blancos鉱山とManto Verde鉱山の合計

各社毎の銅・モリブデン生産状況

(1) CODELCO

前年同期比10万t(1.2%減)の813,000t(El Abra 鉱山権益分49%を含む)の銅を生産した。キャッシュコストはモリブデンクレジット効果により36.5セント/lbから-1.7セント/lbに大幅にダウンした。銅輸出は15%減(去年は備蓄銅を放出)となったにも拘らず売上は前年同期比21.7%増の4,752百万ドル、税引前利益は前年同期比45.5%増の2,240百万ドルを記録した。特にモリブデン売上は総売上の25%、1,200百万ドルに達した。これは2004年1年間の売上高に相当する。一方総コストは資機材(外貨建て価格)の高騰により18.3%上昇し96.2セント/lbとなった。上半期投資額は、CODELCO Norteの拡張およびVentanas製錬所買収を中心に前年同期比2.26倍の966百万ドルとなった。

- ・ CODELCO Norte デイビジョン: 前年同期比 38,200t 減、393,600t の精鉱(含銅量)およびカソードを生産した。減産は SAG ミルの修理、鉱石品位および回収率の低下によるものと報じられている。また副産物のモリブデンの回収に主体を置いたため銅生産が減少したことも考えられる。キャッシュコストは、前年同期の 27.5 セント/lb から -35.8 セント/lb に大幅ダウンした。モリブデン生産量については生産量は公表されていないが、1月～5月の生産量は前年同期比 19% 増と報じられている。
- ・ Salvador デイビジョン: 前年同期比 1,300t 増、34,100t の精鉱(含銅量)およびカソードを生産した。キャッシュコストは、同鉱山の 4 つの生産ラインのうち 2 つを中止したため 62.8 セント/lb から 129 セント/lb に上昇した。なお CODELCO は生産コストの上昇と鉱量枯渇により 2008 年から 2011 年の間に Salvador 鉱山の閉山を決定した。
- ・ Andina デイビジョン: 前年同期比 7,800t 増、123,700t の精鉱(含銅量)および 1,399t のモリブデンを生産した。キャッシュコストは前年同期の 41.6 セント/lb から 24.2 セント/lb にダウンした。
- ・ El Teniente デイビジョン: 前年同期比 23,300t 増、211,300t の精鉱(含銅量)を生産した。キャッシュコストは前年同期の 46.5 セント/lb から 26.3 セント/lb にダウンした。

(2) Antofagasta Plc.

- ・ Los Pelambres 鉱山: 前年同期比 10,300t 減、160,300t の銅精鉱(含銅量)および 4,700t のモリブデンを生産した。銅の減産は計画された鉱山機械のメンテナンスおよび採掘計画上の低品位箇所への採掘による。キャッシュコストは、モリブデンクレジット効果により前年同期の 18 セント/lb から -48.1 セント/lb に大幅ダウンした。
- ・ El Tesoro 鉱山: 前年同期比 3,000t 増、49,900t のカソードを生産した。第 2 四半期は選鉱能力アップ工事のため前期に比べて 10% 程度生産量が低下したが年間生産量は 99,000t になる見込み。キャッシュコストは前年同期の 50.5 セント/lb から 58.9 セント/lb に上昇した。
- ・ Michilla 鉱山: 前年同期比 1,000t 減、22,600t のカソードを生産した。キャッシュコストは前年同期の 84.7 セント/lb から 112.2 セント/lb に大幅に上昇した。

(3) Anglo American Chile

前年同期比 1.2% 増、314,772t (Collahuasi 鉱山の権益分 44% を含む) の銅を生産した。税引前利益は前年比 207% 増の 346 百万ドルとなった。

- ・ Los Bronces 鉱山: 前年同期比 4,600t 減、112,800t の精鉱(含銅量)、カソードおよび 925t のモリブデンを生産した。
- ・ El Soldado 鉱山: 前年同期比 4,400t 増、3,721t の精鉱(含銅量)およびカソードを生産した。
- ・ Mantos Blancos 鉱山: 前年同期比 1,000t 減、40,699t の精鉱(含銅量)およびカソードを生産した。キャッシュコストは 76.5 セント/lb から 103 セント/lb に上昇した。Anglo American Chile は鉱量枯渇により 2009 年に同鉱山の閉山を決定した。
- ・ Manto Verde 鉱山: 前年同期比 1,300t 増、30,600t のカソードを生産した。

(4) BHP Billiton

- ・ Escondida 鉱山: 前年同期比 200t減、595,700tの精鉱(含銅量)およびカソードを生産した。売上は前年同期比 18.6%増の 1,707.9 百万ドルに、利益は前年同期比 22.3%増の 936.9 百万ドルを記録した。また 245 百万ドルの法人所得税を納税した。低品位硫化鉱バイオリーチングプラントは、2006 年第 2 四半期から稼働予定でパッドが完成し、鉱石の積上げを開始した。投資額は 870 百万ドル。Escondida Norte 鉱床開発は剥土作業と破碎設備の据付が行われており 2005 年第 4 四半期から生産開始を予定している。投資額は 400 百万ドル。
- ・ Cerro Colorado 鉱山: 前年同期比 5,000t減、54,400tのカソードを生産した。去る 6 月 13 日に発生したチリ北部地震による操業停止の影響は 6,600t前後と見られている。
- ・ Spence 鉱床開発: 2006 年第 IV 四半期から生産開始の予定でキャンプおよび事務所も完成、電気設備も完成し受電準備が整った。投資額は 990 百万ドル。バイオと化学的リーチングにより年産 200,000tのカソード生産を予定している。

(5) Phelps Dodge

- ・ La Candelaria 鉱山: 前年同期比 11,500t減、85,700tの精鉱(含銅量)を生産した。2005 年末までに Candelaria Norte の坑内採掘開始により 4,000t/日の増産が可能となる見込み。
- ・ El Abra 鉱山: 前年同期比 9,300t減、103,300tのカソードを生産した。

(6) Placer Dome

- ・ Zaldivar 鉱山: 前年同期比 14,100t減、63,900tのカソードを生産した。キャッシュコストも 48 セント/lb から 58 セント/lb に上昇した。減産はメンテナンスのため運搬システムを一時停止したことによるものである。今後 36,300t/四半期レベルに戻るが最終的には 7 月のストライキの影響もあり年産量は若干落ち込む見込み。

(7) Falconbridge

- ・ Collahuasi 鉱山: 前年同期比 19,600t増、205,005tの精鉱(含銅量)およびカソードを生産した。4 月選鉱プラントのモーター修繕のため 3 工程のうち 1 工程を 1 ヶ月近く停止したため、第 2 四半期の生産量が前年同期比 7%減産となった。このため最終的な年間生産量(精鉱およびカソード)は、当初の計画の 595,000tから 556,000tになる見込み。鉱石積出港 Patache に建設中のモリブデン回収プラント(年産 12,000t)工事は約 54%が終了、2006 年初めに生産開始が予定されている。
- ・ Lamos Bayas 鉱山: 前年同期比 1,900t増、32,500tのカソードを生産した。

(8) Aur Resources

- ・ Quebrada Blanca 鉱山: 前年同期比 600t増、38,800tのカソードを生産した。2005 年の年間生産計画は 80,000t、キャッシュコストは 64 セント/lb と見込まれている。

その他

地元紙によると燃料が50%、鉄鋼が36%、化学産品が2倍上昇しており、Consejo Minero(チリ鉱業審議会)も鉱業資機材の高騰により総じて総コストが10%以上上昇していると発表している。Escondida 鉱山の総コストもエネルギーおよび資機材の高騰で10.9%上昇、CODELCOも既述のように18.3%上昇した。

銅・モリブデン輸出状況

2005年上半期銅輸出額は7,852.5百万ドル(総輸出額の41.2%)となり半期単位では過去最高額を記録した。モリブデンも1650.5百万ドル(8.7%)で鮭・鱒762百万ドル(4%)およびワイン407百万ドル(2%)を抜いて前年上半期の第5位から第2位の産品となった(チリ中央銀行)。

銅輸出量は、前年同期比1.2%減の2,617,200tとなった。形態別内訳は、地金:1,412,700t、プリストア:147,000t、精鉱:1,057,500tである。主な輸出先は中国:527,000t(地金:271,800t、精鉱:247,600t)、日本:335,500t(地金:22,800t、精鉱:312,700t)、韓国:213,600t(地金:121,400t、精鉱:88,800t)等である。一方モリブデン(三酸化モリブデンおよびフェロモリブデン)は前年同期比56%増の9,916.7tを輸出した(チリ銅委員会)。

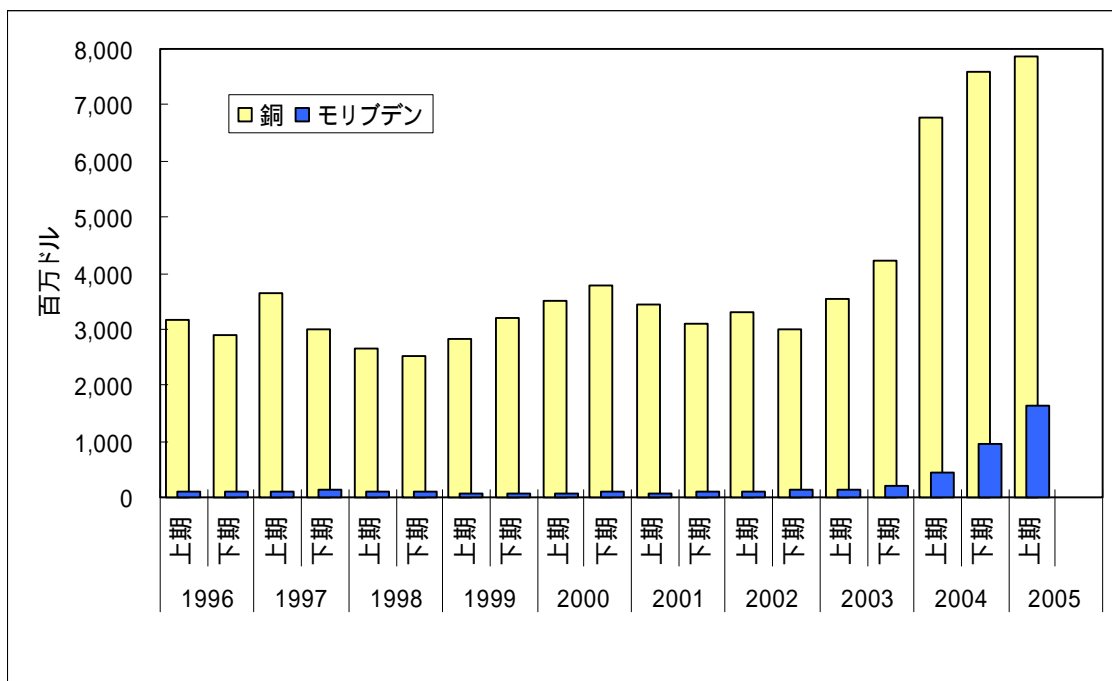


図 銅およびモリブデン輸出額推移(チリ中央銀行 HP)

(サンティアゴ事務所 中山 健)

2-2. その他の主要鉱山生産

Grasberg 鉱山

鉱産物	2004年 第2四半期	2004年 第3四半期	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期
銅(t)	103,900	125,200	215,300	177,000	158,400
金(oz)	383,600	358,600	663,100	763,900	727,400
Cu(%)	0.82	0.83	1.17	1.14	0.98
Au(g/t)	0.95	0.79	1.20	1.62	1.43

Morenci 鉱山

鉱産物	2004年 第2四半期	2004年 第3四半期	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期
電気銅(千t)	105.0	107.6	105.4	92.1	103.0

Antamina 鉱山

鉱産物	2004年 第2四半期	2004年 第3四半期	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期
銅(千t)	91.8	91.9	102.7	91.9	91.8
亜鉛(千t)	54.2	45.0	24.3	59.8	54.2
Cu(%)	1.4	1.3	1.45	1.41	1.4
Zn(%)	1.0	1.0	0.47	1.16	1.1

平成 17 年度情報収集事業報告書 第 3 号

クォーターリー・レビュー

非鉄メジャーの 2005 年第 2 四半期動向

平成 17 年 9 月 発行

発行：独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構

金属資源開発調査企画グループ

〒212-8554 神奈川県川崎市幸区大宮町 1310 番

電話：044-520-8590 FAX:044-520-8750 E-mail:mric@jogmec.go.jp

http://www.jogmec.go.jp/mric_web/

印刷：株式会社 サンワ

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 2-11-18

電話：03-3265-1816 (代)
